

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

- (1) 修士での研究に関する専門分野の現状を理解し、研究を進めるために必要な専門的学力や知識の向上を図る。
- (2) 修士での研究内容に関しての議論を通じて指導教官との十分な疎通を図り、自己の有する能力を研究の内容充実と進捗効率化に活かす。
- (3) 研究の背景、意義、目的などの自主的設定を目指し、指導教官の指導の下、自律的研究遂行に資する。
- (4) 関連する専門分野の学術論文の読解力を向上させ、論文作成能力を身に付ける。

【授業キーワード】

セミナー、研究発表、文献の輪読

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の下に、国内外の専門書や論文の輪講、研究内容に関連する発表、議論を行う。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

修士での研究内容に関する発表内容などから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次・学期及び注意事項は履修案内にも示されている通りであり、各学年の1学期と2学期で開講する。なお、履修推奨年次・学期以外の履修については、ガイダンスで説明する。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

電気・電子システム工学の関連分野全般にわたる基礎的な諸現象を十分に理解し、その応用への開発手法を体得させるための実験を行う。また、独創性や創造性を向上させるとともに、問題解決能力を身に付けさせる。

【授業キーワード】

実験

【授業内容及び授業方法】

各指導教官と相談の上、修士の研究遂行に有用なテーマについて、実践的かつ具体的な実験を行う。また、適宜、進捗状況を報告し、レポートを作成する。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

進捗状況の報告やレポートなどから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次は履修案内にも示されているとおりであるが、2年次に履修することも可能である。

【担当教員】

各教員 (Staff)

【教員室または連絡先】

(各教員の情報を参照)

【授業目的及び達成目標】

電気・電子システム工学の関連分野全般にわたる基礎的な諸現象を十分に理解し、その応用への開発手法を体得させるための実験を行う。また、独創性や創造性を向上させるとともに、問題解決能力を身に付けさせる。

【授業キーワード】

実験

【授業内容及び授業方法】

各指導教官と相談の上、修士の研究遂行に有用なテーマについて、実践的かつ具体的な実験を行う。また、適宜、進捗状況を報告し、レポートを作成する。
指導教官が指示する。

【授業項目】

指導教官が指示する。

【教科書】

指導教官が指示する。

【参考書】

必要に応じ、指導教官が指示または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

進捗状況の報告やレポートなどから、指導教官が総合的に成績を評価する。

【留意事項】

履修推奨年次は履修案内にも示されているとおりであるが、2年次に履修することも可能である。

【担当教員】

八井 浄 (YATSUI Kiyoshi)

【教員室または連絡先】

極限エネルギー密度工学研究センター 極限棟202室

【授業目的及び達成目標】

数千万分の1秒と言う短時間(パルス)ではあるが世界の発電量にも匹敵する大強度・大電流・パルス放電により、超高温・超高密度・超高压・超強磁界を達成することが出来る(極限エネルギー密度状態)。このような極限状態では物質は必然的にプラズマとなり、これを用いと種々の応用が可能となる。電磁エネルギーの発生・性質・変換・輸送・計測及び各種応用等について詳しく述べる。

【授業キーワード】

極限エネルギー密度状態、プラズマ、ビーム、短パルス、電磁流体力学、レーザー

【授業内容及び授業方法】

プラズマ粒子の分布関数を考慮しない磁気流体力学的手法や、これを考慮する運動論を用いてプラズマを正確に理解する。また、高温・高密度プラズマを得るために、パルスパワー工学や、粒子ビーム工学、及びこれに関連する超高エネルギー密度工学の開発と応用について詳しく述べる。

【授業項目】

1. 電磁エネルギーの発生・性質・変換・輸送・貯蔵
2. 電磁流体的手法と運動論的手法
3. パルスパワー発生技術
4. 各種レーザー励起とその応用
5. 荷電粒子ビーム(電子ビーム、イオンビーム)と中性ビーム
6. 核融合への応用
7. 電磁エネルギー計測
8. 電磁エネルギー応用(ミリ波・マイクロ波源、強力放射線源、高速飛翔体加速、各種材料開発、バイオ・医用、岩石破碎等)

【教科書】

八井 浄、江 偉華著:電気学会大学講座「パルス電磁エネルギー工学」(電気学会、2002)

【参考書】

八井 浄、江 偉華著:「SCIENCE AND TECHNOLOGY プラズマとビームのはなし」(日刊工業新聞社、1997)

【留意事項】

受講者は、数学I, II、物理学I, II、電磁気学、量子物理学、電磁エネルギー工学、プラズマ物性工学、核エネルギー工学、レーザー工学等を受講していることが望ましい。

【担当教員】

入澤 壽逸 (IRISAWA Juichi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟406室

【授業目的及び達成目標】

プラズマは制御熱核融合への応用ばかりでなく、物性方面への応用など多岐にわたっている。プラズマの物性と工学的応用との関連を深く理解するとともにそこに介在する技術の重要性を認識する。

Plasmas are widely used not only for a thermo nuclear fusion but also for a high technology of many materials. Students are requested to understand the relations between the characteristics of plasma and its applications for engineering. Above all, students should recognize the importance of existing technology in its applications.

【授業キーワード】

プラズマ、核融合、プラズマ応用、プラズマ診断

Plasma, Thermo nuclear fusion, Plasma application, Plasma diagnostics

【授業内容及び授業方法】

プラズマの基本的性質を理解してから、高温プラズマを磁界中に閉じ込めるために如何なる努力が払われてきたかを概観する。次に、現在ハイテクなどで利用されているプラズマの発生法と応用を学ぶ。さらに、プラズマの基本的な物理量である電子温度、イオン温度、密度の計測法を学ぶ。

After understanding the basic characteristics of plasma, footsteps to confine high temperature plasma in the magnetic field are over viewed. Then plasma generations and its applications to current high technology are studied. Finally plasma diagnostics for measuring the basic physical constants of electron temperature, ion temperature and plasma density are summarized.

【授業項目】

- 1) 概論(プラズマの基本的性質)
- 2) 高ベータプラズマ実験の歩ゆみ(各種の磁界配位は如何にして考え出されてきたか?)
- 3) トカマク実験の歩ゆみ(なぜ実験装置が巨大化してきたか?)
- 4) プラズマ発生法(直流, 交流, 高周波, パルスなど)
- 5) プラズマ応用
- 6) プラズマ診断(ラングミュアプローブ法, レーザー散乱法など)
- 7) パルス・パワー技術

- 1) Summary of basic plasma characteristics of plasma
- 2) High- β plasma experiments (How to think out of various magnetic field configurations suitable for plasma confinement ?)
- 3) Tokamak experiments (Why experimental apparatus of tokamak is so large ?)
- 4) Plasma generation (DC, AC, high frequency, pulsed, etc.)
- 5) Plasma applications
- 6) Plasma diagnostics (Langmuir probe, laser scattering, laser interference, etc.)
- 7) Pulsed power technology

【教科書】

OHPを使用して講義形式で解説する。 Ordinary lecture by using OHP

【参考書】

例えば、”Introduction to Plasma Physics” Francis F.Chen, Plenum Press

【成績の評価方法と評価項目】

レポートで評価する。 Evaluated by report submitted at the end of semester

【留意事項】

プラズマに関する高度な予備知識がなくとも興味を持てるように配慮する。

Students are not requested at first to be familiar with knowledge of plasma

【担当教員】

近藤 正示 (KONDO Seiji)

【教員室または連絡先】

電気1号棟307室

【授業目的及び達成目標】

パワーエレクトロニクスシステムの制御の考え方・具体的方法について、特に誘導電動機の制御を例として、理解を深める。

【授業内容及び授業方法】

板書およびプリントにより、数式・等価回路・ブロック図などの物理的意味およびその導出について講述する。

【授業項目】

1. 現代制御理論の要点——伝達関数と状態方程式、状態方程式の解、安定性、可制御・可観測性、オブザーバなど。
2. 誘導電動機のモデリング——瞬時値ベクトルを用いた状態方程式
3. 磁界オリエンテーション形、および、すべり周波数形ベクトル制御
4. トルクあるいは磁束の検出方法
5. 速度センサレスベクトル制御

【教科書】

なし

【成績の評価方法と評価項目】

中間試験並びに期末レポートにより評価する。

【留意事項】

学部で「制御理論」「パワーエレクトロニクス」「電機変換工学」を受講していることが望ましい。

【担当教員】

原田 信弘 (HARADA Nobuhiro)

【教員室または連絡先】

電気1号棟403号室(内線9511、E-mail: nob@nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

新しい発電や推進方式として、また航空宇宙分野への応用が注目されている電磁流体力学の基礎として、これらに用いられるプラズマの基礎的性質、電磁気学と熱・流体力学との関係を理解し、MHD発電やMHD推進、さらには宇宙応用の可能性について理解を深める。

Magnetohydrodynamics (MHD) has been closed up for the applications of new generation's high efficiency electrical power generation, electrical propulsion and aerospace applications. We learn basic characteristics of the plasma used for such MHD processes and understand interactions between electro-magnetics and thermo-fluid dynamics. Furthermore, we understand the MHD power generation, MHD propulsion, MHD acceleration and other space applications.

【授業キーワード】

電磁流体、流体力学、電磁気学、電磁誘導、ローレンツ力、数値解析、MHD推進、MHD加速、MHDロケット Magnetohydrodynamics, fluid dynamics, electro-magnetics, magnetic induction, Lorentz force, numerical analysis, MHD propulsion, MHD rocket

【授業内容及び授業方法】

電磁流体力学の応用として次世代の高効率発電システム、推進システムに利用されるプラズマの基礎を学ぶ。さらにプラズマの特徴である電気的中性、デバイ長や衝突過程、電離過程と電気伝導度を学び、プラズマを電磁流体としてとらえる。このプラズマを応用するために、流体力学の基礎を学習し、電磁気学と流体力学の接点である電磁流体力学的取り扱いを修得する。将来的な応用として、MHD発電、MHD推進、その他について基礎的な特徴と現状・将来について知識を深める。可能な限り、発表の機会やレポート課題を多くし、英語や技術用語についても親しめるよう工夫する。

We learn basic characteristics of the plasma which is used for next generation's high efficiency electric power generation system and high performance electric propulsion system. Moreover, we study electrical neutrality, Debye length, collisional processes, ionization/recombination process and electrical conductivity. We treat such a plasma as magneto-fluid. In order to apply this plasma as working medium of new applications, we learn basic principle of fluid dynamics and effects of electric- and magnetic field on fluid behavior. Also MHD power generation, MHD propulsion/acceleration and other space applications are introduced. Presentation and reports are set in this lecture. I try to explain technical terms in English as much as possible.

【授業項目】

- 1、本講義で取り扱うプラズマの概説
- 2、気体の電離と電気伝導度
- 3、流体力学の基礎と電磁気学
- 4、非平衡電離とプラズマの安定性
- 5、電磁流体力学(MHD) 発電方式と性能
- 6、MHD推進と宇宙応用

- 1, Outline of plasma treated in this lecture
- 2, Ionization of gases and electrical conductivity
- 3, Basic of fluid dynamics, electro-magnetics and their interactions
- 4, non-equilibrium ionization and plasma stability
- 5, MHD electrical power generation and its generator performance
- 6, MHD propulsion and further applications of aerospace field

【教科書】

必要に応じてプリントを用意する。

Provide printed matter if required.

【参考書】

「Magnetohydrodynamic Energy Conversion」McGraw-Hill

【成績の評価方法と評価項目】

講義中に何回か行う課題レポート、期末レポート、または講義内容から基礎的な理解度を問う試験を行い、総合的に評価する。出席(約30%程度)その他レポート等(約70%程度)

【留意事項】

AOTSに係る学生、留学生のため、また専門・技術用語を修得するためにも英語をできるだけ活用する。

【参照ホームページアドレス】

<http://nob.nahaokaut.ac.jp/>

【担当教員】

大石 潔 (OHISHI Kiyoshi)

【教員室または連絡先】

教官室: 電気1号棟509号室 / My office room: Room 509 of Elect. Build. No.1

研究室: 実験実習2号棟情報システム実験室

連絡先: 内線(Ex.)9525, e-mail:ohishi@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

産業界では、FA(ファクトリオートメーション)機器が数多く使われている。現在のFA機器のアクチュエータでは、そのほとんどがモータとギアの結合体による電機システムである。FA機器の代表的なものとして産業用ロボットマニピュレータのモーション制御法について、本講義では講義する。本講義では、ロボットマニピュレータの運動学(キネマティクス)と動力学(ダイナミクス)を説明して、理解していく。ロボットマニピュレータのモーション制御法として、外乱オブザーバ、ロバスト加速度制御法について概説し、議論しながら考察していく。

Industry application field has been using many factory automation systems. Ordinary, the actuators of recent FA systems are the system connected electric motor to mechanical gear. This subject "Electric Machine System Control" lectures and discusses the motion control method of industrial robot manipulator, which is the typical FA system. In this subject "Electric Machine System Control", the items "Kinematics", "Dynamics", "Disturbance observer" and "Robust acceleration control" are summarized and discussed.

【授業キーワード】

ロボットマニピュレータ, 運動学, 動力学, ラグランジュ法, 外乱オブザーバ, ロバスト加速度制御法 Robot manipulator, Kinematics, Dynamics, Lagrange method, Disturbance observer, Robust acceleration control

【授業内容及び授業方法】

本講義は、基本的には、教科書とプリントで行う。プリントは、講義中に適宜配布する。本講義では、ロボットの運動方程式をラグランジュ法とニュートン・オイラー法から導出法を講述する。制御系を構成する上での基礎となる運動学と動力学を講述する。ロボットマニピュレータのモーション制御法として、従来の制御法を講述した上で、外乱オブザーバとロバスト加速度制御法について概説する。そして、受講生に制御方法について、議論してもらい考察を深める。

This subject "Electric Machine System Control" uses both the text book "Introduction to Robot Control" and my original print. This subject lectures the induction method of Kinetic equations of robot manipulator using both Lagrange method and Newton-Eular method. This subject lectures Kinematics and Dynamics of robot manipulator, which is very important to construct the manipulator control strategy. For the items on manipulator motion control, this subject summarizes both disturbance observer and robust acceleration control, in comparison with the conventional robot manipulator control method. Moreover, the students must discuss and research the robot motion control method in this subject.

【授業項目】

1. 座標の記述と変換 (Spatial Descriptions and Transformations)
2. 運動学と逆運動学 (Kinematics and Inverse Kinematics)
3. ヤコビアンと動力学 (Jacobians and Dynamics)
4. マニピュレータの線形制御と非線形制御 (Linear Control and Non-Linear Control of Manipulator)
5. 外乱オブザーバ (Disturbance Observer)
6. マニピュレータの力制御とロバスト加速度制御 (Force Control and Robust Acceleration Control of Manipulator)

【教科書】

「ロボティクス ー機構・力学・制御」 J.J.Craig著 / 三浦宏文, 下山勲訳 共立出版社
"Robotics -Mechanics and Control-" J.J.Craig, Addison-Wesley Publishing Company

【参考書】

「ロボット制御工学入門」 美多勉・大須賀公一著 コロナ社
"Introduction to Robot Control" T. Mita and K. Osuka, Corona Publishing Company

【成績の評価方法と評価項目】

数回の小レポート(40%)と学期末レポート(60%)によって評価する。

For the student, each grade (mark) of this subject is judged by both the final report document (60%) and the small report document (40%). This subject requests the five times small report document.

【担当教員】

野口 敏彦 (NOGUCHI Toshihiko)

【教員室または連絡先】

電気1号棟402教官室(内線9510, e-mail:tnoguchi@vos)
Electrical Dept. Bld. #1, Office 402 (Ext.9510, e-mail:tnoguchi@vos)

【授業目的及び達成目標】

パワーエレクトロニクスの中核を担う電動機制御と電力変換器の2分野に関して、昨今の技術動向に対する知見を広める。

Objective of this class is to have the latest knowledge on motor drive and power conversion technologies, which are the core technical fields of recent power electronics.

【授業キーワード】

電動機制御技術, 電力変換器制御技術
Motor control technologies, and power conversion technologies

【授業内容及び授業方法】

これまでに刊行された学術論文などをもとに、電動機制御と電力変換器について重要な研究成果を振り返るとともに、近年の学術会議あるいは産業界で実際に話題となっている技術にも言及する。なお、講義は配布する資料をもとに行う。

This class will be given with handouts. Various technical papers as well as journal articles are used to describe a historical aspect and a background of the motor drive and power conversion technologies. Not only the past important works will be taken a look back upon, but also recent topics discussed in academic conferences and symposiums will be taken up in this lecture.

【授業項目】

- 第1週:総論
- 第2週～第3週:直流電動機の制御(電流制御, 速度制御, 位置制御)
- 第4週～第5週:交流電動機の制御(非干渉電流制御, トルク伝達関数定数化制御)
- 第6週～第8週:トルク伝達関数定数化の意味とその実現法(伝達関数による解釈, 間接形ベクトル制御, 直接形ベクトル制御)
- 第9週～第10週:その他の電動機制御法
- 第11週～第12週:電動機パラメータの同定とセンサレス制御
- 第13週:電力変換器による種々の電流制御法
- 第14週:電力変換器の制御と電動機制御が一体となった手法
- 第15週:最近の技術的話題

The 1st week: Overview

The 2nd-3rd weeks: Dc machine control (current, speed and position control)

The 4th-5th weeks: Ac machine control (decoupling current control and field-oriented control)

The 6th-8th weeks: Principle of field-orientation and its implementation (description by transfer functions, indirect field-orientation, and direct field-orientation)

The 9th-10th weeks: Other control techniques of motor drives

The 11th-12th weeks: Parameter identification and mechanical sensorless techniques of motor drives

The 13th week: Current control techniques using power converters

The 14th week: Techniques that combines a power converter and a motor

The 15th week: Recent technical topics

【教科書】

教科書は指定しない。
No textbooks specified

【参考書】

なし。
No reference books specified

【成績の評価方法と評価項目】

数回に渡り提出された報告書と期末試験によって評価する。

Grade will be determined by evaluating several reports (assignments) and a final examination.

【担当教員】

江 偉華 (JIANG Weihua)

【教員室または連絡先】

極限エネルギー密度工学研究センター1号棟201室

Room 201, Extreme Energy-Density Research Institute

【授業目的及び達成目標】

授業目的

パルス粒子ビームの発生から応用までの基本技術を習得する。荷電粒子ビームの物理的特長を把握するとともに、粒子ビームの発生と制御について学ぶ。

達成目標

- ・荷電粒子ビームの基本的特徴を理解すること。
- ・粒子ビームの物理的特性を把握すること。
- ・主な粒子パルスビーム発生法およびその原理を説明できること。
- ・粒子ビームの応用範囲を認識し、主な応用法の概要を説明できること。

Fundamental technologies of pulsed charged-particle beam generation and applications.

- 1) Characteristics of charged particle beam.
- 2) Physical properties of particle beam.
- 3) Principle of pulsed particle beam generation.
- 4) Applications of pulsed particle beam.

【授業キーワード】

荷電粒子、プラズマ、パルスパワー、加速器、放射光

charged-particle beam, plasma, pulsed power, accelerator, radiation

【授業内容及び授業方法】

パルス粒子ビームの基礎から応用まで解説する。最初は、荷電粒子ビームに関する学習に必要な予備知識を概説する。その後荷電粒子ビームの基本性質、発生法、計測法等について詳しく説明する。また、粒子ビームエネルギーを他のエネルギー形態への変換法について説明する。最後にはパルス粒子ビームの各種応用について具体例を用いて説明する。配付資料に基づいて講義を行う。毎週演習またはレポートを出題し、翌週の講義時間に答案を回収する。

The lecture will first cover the basic knowledges related to charged-particle beam. They will be followed by explanations on physical characteristics, generation and diagnostics of charged-particle beam. After the chapters on energy conversion and transformation, the lecture will go through some major applications of charged-particle beam.

【授業項目】

- 1) パルス粒子ビームの基礎
(荷電粒子ビームについて、粒子ビームについて、粒子ビームとプラズマ)
 - 2) 荷電粒子ビームの性質
(荷電粒子ビームの自己電界、荷電粒子ビームの自己磁界、相対論的效果)
 - 3) パルス粒子ビームの発生
(パルスパワーの発生、大電力ダイオード)
 - 4) パルス粒子ビームの計測
(パルス高電圧の計測、パルス大電流の計測)
 - 5) 他のエネルギー形態への変換
(電磁波への変換、レーザーへの変換、運動エネルギーへの変換)
 - 6) パルス粒子ビームの応用
(材料開発、排ガス処理、新エネルギー開発)
- 1) Pulsed charged-particle beam
(Particle beam, charged-particle beam, particle beam and plasma)
 - 2) Properties of charged particle beam
(Self-electric field of charged particle beam, self-magnetic field of charged particle beam, relativistic effect)
 - 3) Generation of pulsed charged-particle beam
(Generation of pulsed power, high power diode)
 - 4) Diagnostics of pulsed charged-particle beam
(Diagnostics of pulsed high voltage, diagnostics of pulsed high current)
 - 5) Energy conversion
(Electromagnetic field, laser, kinetic energy)
 - 6) Applications of pulsed charged-particle beam

(material, environment, energy development)

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

八井 浄、江 偉華著:「パルス電磁エネルギー工学」(電気学会、2002)

八井 浄、江 偉華著:「SCIENCE AND TECHNOLOGY プラズマとビームのはなし」(日刊工業新聞社、1997)

【成績の評価方法と評価項目】

演習レポートの合計を40点満点、中間試験、期末試験の得点をそれぞれ30点満点、これらの合計を100点満点として成績を評価する。

【留意事項】

受講者は、電磁エネルギー工学、プラズマ物性工学、高電圧工学等を受講しているのが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

<http://beam201b.nagaokaut.ac.jp/particle/index.html>

粒子ビーム工学(学内専用)

【担当教員】

末松 久幸 (SUEMATSU Hisayuki)

【教員室または連絡先】

極限エネルギー密度工学研究センター 粒子棟203号室
電話9894、電子メールsuematsu@vos

【授業目的及び達成目標】

今だ未知の機構により発現する高温超伝導をになう材料の、合成、評価手法、特性の検討、解析を通して、酸化物材料の材料設計指針とその背後にある学際領域の科学の理解を目的とする

【授業キーワード】

高温超伝導、銅酸化物、結晶構造、臨界温度、臨界電流密度、固相反応

【授業内容及び授業方法】

高温超伝導物質の合成法を分類し、結晶構造とホールドーピングの関係を解説する。そして高温超伝導物質の常温、低温での物性を説明する。最後にピーク効果を始めとする特異な臨界電流特性の関係を示し、量子化磁束ピン止め中心を紹介する。高温超伝導現象は、今だ完全な理解に到達していない最先端の科学領域に属する。授業では、諸説を列記したあと、最も正しいと思われる説を解説する。

【授業項目】

1. 高温超伝導現象: その発見と歴史
2. 高温超伝導物質の結晶構造
3. 高温超伝導物質の合成
4. 高温超伝導物質の常伝導特性
5. 高温超伝導物質の超伝導特性
6. 高温超伝導材料の臨界電流特性
7. 高温超伝導材料の応用

【教科書】

特になし

【参考書】

「高温超伝導体の物性」、内野倉國光、前田京剛、寺崎一郎著、培風館

【成績の評価方法と評価項目】

レポートにより評価する。

【参照ホームページアドレス】

<http://etigo.nagaokaut.ac.jp/suematsu/>
末松久幸のページ

【担当教員】

伊東 淳一

【授業目的及び達成目標】

最近の半導体電力変換器や電動機・発電機の実体を知り、これらがどのように利用されているか、制御の方法はどうかなど知ることを目的とする。

【授業キーワード】

インバータ、コンバータ、電動機、発電機

【授業内容及び授業方法】

まず電力半導体素子の使い方、現状、制御の仕方、インバータ・コンバータの回路方式などの基礎的な部分を学習する。それと電力制御に適した制御理論を学び、種々の電力制御、回転機制御などの実際的なものまで行なう。

【授業項目】

1. 電力制御への現代制御理論の応用(第1週)
2. 電力変換器の動作原理と種々の回路(第2週)
3. 電力変換器に使用するスイッチング素子(第3週)
4. インバータ主回路方式と考え方(第4週)
5. PWMインバータドライブ方式(第5週)
6. 従来のインバータの問題点(第6週)
7. 高力率コンバータ(第7週)
8. 従来のインバータの波形制御法(第8週)
9. 新しいPWMインバータ波形制御法(第9週)
10. 新しいインバータ回路方式(第10週)
11. 電動機のトルク制御法(第11週)
12. 電動機の世界制御法(第12週)
13. 電動機の位置制御法(第13週)
14. 大電力高速制御法(第14週)
15. 電力障害補償法(第15週)

【教科書】

なし。プリントを配付する。

【参考書】

「パワーエレクトロニクス回路」電気学会編・オーム社、「半導体電力変換回路」電気学会編 オーム社

【成績の評価方法と評価項目】

電力変換器に関する新しい方法をレポートにまとめる。

【留意事項】

パワーエレクトロニクス、電機変換工学を履修していること。

【担当教員】

北谷 英嗣 (KITATANI Hidetsugu)

【教員室または連絡先】

電気1号棟304室

【授業目的及び達成目標】

本講義は、高度化した最近の磁気応用に対応するために、その基礎となる磁性体の相転移現象の本質を理解することを目的とする。

The aim of this course is to understand the critical phenomena of magnetic systems.

【授業キーワード】

スピン, 相転移, 臨界現象, 平均場理論, くりこみ群, モンテカルロシミュレーション, 有限サイズスケーリング

spin, phase transition, critical phenomena, mean field theory, renormalization group, Monte Carlo simulation, finite-size scaling

【授業内容及び授業方法】

まず、物質の磁気的性質を担う電子のスピンの由来を理解し、次に様々な相転移現象の基礎的理論を学ぶ。最後に、最近の相転移現象の研究でよく用いられているコンピュータシミュレーションにおける有限サイズスケーリング法を解説する。

We will learn the magnetic properties of spin systems, particularly the basic theory of phase transitions.

Then we will learn the computer simulations and finite-size scaling of spin systems.

【授業項目】

1. 量子力学の基礎とスピンの由来 (basis of quantum mechanics)
2. 相転移現象の平均場理論 (phase transition and mean field theory)
3. 1次元、及び2次元イジングモデルの厳密解 (exact solution of one- and two-dimensional Ising models)
4. くりこみ群の方法 (renormalization group method)
5. モンテカルロシミュレーション (Monte Carlo simulation)
6. シミュレーションにおける有限サイズスケーリング法 (finite-size scaling)

【教科書】

特に指定せず、必要に応じてプリントを配付する。

Hand-out will be distributed to students.

【参考書】

「磁性体の統計理論」小口武彦著、物理学選書12、裳華房

【成績の評価方法と評価項目】

レポートにより成績評価を行う。

Evaluation will be based on several reports.

【担当教員】

濱崎 勝義 (HAMASAKI Katsuyoshi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟301室
Room 301, 2nd building of Electrical Engineering Department

【授業目的及び達成目標】

講義では、超伝導デバイスとその応用回路の原理について説明する。これにより、受講者は低及び高 T_c 超伝導の基礎を理解することができる。

In the lectures, the principles of superconductivity underlying its use in devices and circuits will be presented. Students will understand the fundamentals of both low- and high- T_c superconductivity after the lectures.

【授業キーワード】

準粒子及び超伝導電子のトンネル効果, Josephson効果, Ginzburg-Landau理論
Quasiparticle and Cooper-pair tunneling effects, Josephson effect, Ginzburg-Landau theory

【授業内容及び授業方法】

主な授業内容は、(a)超伝導現象の基礎、(b)準粒子及びクーパー対のトンネル理論、及び(c)超伝導の応用、である。講義はOHPを用いて行う。

The topics of the lectures include: (a) introduction to superconductivity; (b) tunneling theory of both quasiparticles and Cooper pairs; (c) applications of superconductors. The lectures will be carried out using overhead projector.

【授業項目】

主な講義項目は次の5つである。

- 1.超伝導の歴史
- 2.準粒子及び超伝導電子のトンネル効果
- 3.Josephson効果
- 4.Ginzburg-Landau理論
- 5.Josephson素子の応用

The subject is divided into five main sections:

- 1.History of superconductivity
- 2.Quasiparticle and Cooper-pair tunneling effects
- 3.Josephson effects
- 4.Ginzburg-Landau theory
- 5.Applications of Josephson junctions

【教科書】

なし

【参考書】

- 1.T. van Duzer and C.W. Turner, "Principles of Superconductive devices and circuits", Elsevier North Holland Inc. 1981
- 2.A. Barone and G. Paterno, "Physica and applications of the Josephson effect", John Wiley and Sons, Inc., 1982

【成績の評価方法及び評価項目】

出席点、並びにレポート点により判定する。

Grading will be based on some reports and class participation.

【留意事項】

特になし

【担当教員】

安井 寛治 (YASUI Kanji)

【教員室または連絡先】

電気1号棟302室、内線9502
Room 302, 1st Building of Electrical Engineering Department, Ext 9502

【授業目的及び達成目標】

現在のエレクトロニクス社会を支えている半導体の基礎物性ならびに半導体デバイスの動作原理について英文のテキストを講読して学ぶ。また実用化されている半導体デバイスの構造や特性を理解するとともに化合物半導体を用いた特殊なデバイスの構造と動作原理を理解する。

Basic properties of semiconductors and operating principles of semiconductor devices, which support modern electronic society, will be studied using an English textbook. Students can also understand the structures and characteristics of general semiconductor devices such as bipolar transistor and field effect transistor. Special devices using compound semiconductors such as hetero bipolar transistor will be explained.

【授業キーワード】

半導体デバイス、pn接合ダイオード、バイポーラトランジスタ、電界効果トランジスタ、化合物半導体デバイス
semiconductor device, pn junction diode, bipolar transistor, field effect transistor, compound semiconductor device

【授業内容及び授業方法】

半導体の基本的な物性やキャリア輸送について概説した後、代表的な半導体デバイスの構造と機能、そして動作メカニズムについて説明する。まず半導体デバイスの基本構造であるpn接合について説明するとともに、pn接合構造を有するpn接合ダイオード、バイポーラトランジスタの機能と特性について説明する。次にユニポーラデバイスである電界効果トランジスタの構造と機能について説明する。さらに化合物半導体を用いた特殊なデバイスについても説明する。

The structures, functions and operating mechanisms of some typical semiconductor devices will be studied in this lecture. At first, the structure of pn junction, which is the basic structure of semiconductor devices, will be studied. The operation mechanisms and the characteristics of pn junction diode, bipolar transistor and unipolar devices (field effect transistor) will be studied. Further, unique devices such as heterobipolar transistor using compound semiconductors will be studied.

【授業項目】

1. エネルギーバンドとキャリア密度
2. キャリア輸送現象
3. pn接合
4. バイポーラデバイス
5. ユニポーラデバイス
6. ヘテロ接合デバイス
1. Energy bands and carrier density
2. Carrier transport phenomena
3. Pn junction
4. Bipolar devices
5. Unipolar devices
6. Heterojunction devices

【教科書】

「Semiconductor Device Physics and Technology」S. M. Sze 著、John Wiley & Sons, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

レポートを50%、期末テストの結果を50%として成績を評価する。その結果が59点以下の者に対しては追試を行う。追試で60点以上の得点をとれば60点として単位を認定する。

Evaluation: written examination 50%, report for the exercises included in textbook 50%.

【留意事項】

受講者は、学部において「電子物性」、「半導体工学」等の科目を受講していることが望ましい。
It is desirable that students have already attended the lectures such as Solid State Electronics or Semiconductor Electronics during undergraduate.

【担当教員】

赤羽 正志 (AKAHANE Tadashi)

【教員室または連絡先】

電気棟1号棟308室(内線:9508, e-mail:akahane@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

ディスプレイデバイスの動作原理を理解するために必要な光物性、電気物性の基礎を修得し、それが現実のディスプレイデバイスにどのように活かされているかを理解することを目的とする。

The aim of this lecture is to obtain the fundamentals of the optical and electrical properties of materials used in display devices and to understand how these characteristics are utilized for actual display devices.

【授業内容及び授業方法】

この講義の前半では、光物性、電気物性の基礎について学び、後半では、ディスプレイデバイスについて具体的に学ぶ。

The first half of this lecture deals with the fundamentals of optical and electrical properties of solids, and the latter half of the lecture deals with display devices.

【授業項目】

1. 異方性媒質中の光の伝播(結晶光学の基礎)
2. ベクトルポテンシャルによる電磁波の記述と量子化
3. 固体のバンド理論
4. 半導体の光吸収
5. ディ스플레이デバイス概論
6. 液晶の物性と液晶ディスプレイ

1. Light propagation in an anisotropic medium (fundamentals of crystal optics)
2. Description of the electromagnetic wave by means of vector potential and its quantization
3. Band theory of solids
4. Light absorption in semiconductor
5. display devices
6. Physical properties of liquid crystals and liquid crystal display

【教科書】

プリントを使用する。

【担当教員】

高田 雅介 (TAKATA Masasuke)

【教員室または連絡先】

電気1号棟401号室(内線9509、e-mail:takata@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

授業目的
セラミックスの電子物性を学習する。

【授業キーワード】

セラミックス、単結晶、多結晶、アモルファス、ガラス、電子伝導、イオン伝導、誘電体、圧電体、磁性体、超伝導体

【授業内容及び授業方法】

セラミックスの作製法、種々の電子物性およびその測定法などを学ぶ。

【授業項目】

- 1.セラミックスの定義
- 2.単結晶と多結晶
- 3.ガラス
- 4.電子伝導体
- 5.イオン伝導体
- 6.誘電体
- 7.圧電体
- 8.磁性体
- 9.超伝導体

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

「電子材料セラミックス」柳田博明、高田雅介、技報堂

【成績の評価方法と評価項目】

出席点およびレポートによって評価する。

【留意事項】

受講者は「電気磁気学及び演習I, II」および「電子物性基礎」を習得していることが望ましい。

【担当教員】

河合 晃 (KAWAI Akira)

【教員室または連絡先】

電気1号棟404室(内線9512,E-mail kawai@vos)

【授業目的及び達成目標】

授業目的

メモリ機能を有する機能性デバイスである高集積半導体素子 (LSI) および最先端のデバイスの基本動作およびプロセス技術を解説する。また、今後の先端機能性デバイスの基本動作について述べる。これら機能性デバイスの実用機能を支配する工学的要因を具体的に講義する。

Aims

The aims of this class are to present the principles of semiconductor devices, to provide techniques for designing memory structure and to introduce basic processes for device fabrication.

達成目標

- ・先端デバイスの特徴、動作原理を理解できる。
- ・デバイス作製プロセスの原理・応用を理解できる。
- ・電子産業の技術動向を理解・把握できる。

Objectives

At the end of the class student should

- ・understand the device structure and mechanism of electronic devices
- ・be able to design and minimize memory device structure
- ・know how to design a simple memory structure
- ・have a basic understanding of how COMS technology works and what factors limit its speed of operation

【授業キーワード】

メモリ、LSI、半導体、薄膜、エッチング、CVD、イオン注入、リソグラフィ、信頼性評価

Memory, LSI, semiconductor, silicon, thin film, etching, CVD, ion implantation, lithography, reliability, cleanness

【授業内容及び授業方法】

1. 半導体LSIの基本特性
2. 電子デバイスの動作と基礎、動作特性の最適化、研究開発上の問題点 (MOS Tr. C-V特性、DRAM, SRAM, EPROM, FRAM ロジックゲート)
3. 各種プロセス技術の基礎特性と応用 (酸化・拡散、イオン注入、膜形成 (スパッタ、蒸着、CVD, レジストプロセス、エッチング、信頼性評価、マイグレーション、クリーンネス)
4. 次世代デバイスの基本動作と応用 (量子効果デバイス、単電子トランジスタ、マイクロナノマシンなど)
5. デバイス構築におけるプロセス設計 (素子構造解析の演習など)
6. 学術論文に基づく重要技術

The six subjects will be taught as follows:

1. Introduction of semiconductor LSI
2. Mechanism of electronic devices (MOS Tr, C-V characteristics, DRAM, SRAM, EEPROM, FRAM, logic devices)
3. Process technologies (oxidation, diffusion, ion-implantation, film formation (sputtering, evaporation, CVD, resist process, etching, reliability, migration, cleanness)
4. Devices for next generation (quantum devices, single electron Tr, micro-nanomachine)
5. Designing of device structure and optimizing processes.

【授業項目】

1. メモリ素子構造 (Device structure of memory)
2. CMOS設計 (CMOS designing)
3. Tr評価方法 (C-V特性) (Tr property analysis)
4. 作製プロセス概論 (Fabrication processes)
5. 酸化、拡散 (Oxidation, diffusion)
6. スパッタリング、蒸着 (sputtering, evaporation)
7. レジストプロセス (resist process)
8. エッチング (etching process)
9. 信頼性評価 (reliability)
10. クリーンネス (cleanness)
11. 先端デバイス (quantum devices)

【教科書】

なし (プリント、OHPを使用する)

Hand made print will be offered to students.

【参考書】

なし

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験を60%、レポートを40%として評価する。
Grade will be based on the following.
60% examination, 40% report

【担当教員】

關 一 (SEKI Hajime)

【教員室または連絡先】

電気1号棟603室

【授業目的及び達成目標】

電磁波の放射・導波伝送・散乱・回折などの問題を解くための様々な解析的あるいは数値的手法について学ぶ。

【授業内容及び授業方法】

各手法の考え方・定式化の手順・計算上の留意点などについて、例題をとおして学んでゆく。

【授業項目】

1. 有限要素法 (FEM: Finite Element Method)
2. 境界要素法 (BEM: Boundary Element Method)
3. スペクトル領域法 (SDM: Supectrum Domain Method)
4. モード整合法 (MMM: Mode Matching Method)
5. 有限差分時間領域法 (FD-TD: Finite Difference-Time Domain Method)
6. 幾何光学的回折理論 (GTD: Geometrical Theory of Diffraction)
7. その他

【教科書】

なし(講義プリントを使用する)

【参考書】

「電磁波問題の基礎解析法」、山下栄吉監修、電子情報通信学会
「電磁波問題解析の実際」、山下栄吉編著、電子情報通信学会

【担当教員】

打木 久雄 (UCHIKI Hisao)

【教員室または連絡先】

電気1号棟601室教官室、内線9527、E-mail: uchiki@nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

ピコ秒・フェムト秒レーザーを用いて、実際の材料の光学特性の研究を行うための基本的なレーザー技術と分光測定技術について述べる。

Picosecond and femtosecond laser spectroscopic methods are described for the study of optical properties of materials.

【達成目標】

超短光パルスの発生の原理を理解すること
超短光パルスの測定法を理解すること
超短光パルスの増幅法を理解すること
超短光パルスを用いた各種分光法を理解すること

To understand principle of generation of ultrashort light pulses
To understand methods of measurement of pulse width of ultrashort light pulses
To understand methods of amplification of ultrashort light pulses
To understand spectroscopic methods with the use of ultrashort light pulses

【授業キーワード】

ピコ秒・フェムト秒レーザー、レーザー分光法

picosecond and femtosecond laser, laser spectroscopy

【授業内容及び授業方法】

授業内容]ピコ秒・フェムト秒レーザーを実際の材料の研究に使用することを念頭において、その発生法やパルス幅の測定法、および種々のピコ秒・フェムト秒レーザー分光法を学習する。

Generation and pulse-width measurement of ultrashort light pulses and several spectroscopic methods for the study of fast optical processes in materials are described.

【授業方法】毎回数ページのプリントを配布し、それに基づいて解説する。

The lecture is given based on printed synopsis.

【授業項目】

- 1回 レーザーの基礎
- 2回 モード同期の実際
- 3回 超短光パルス幅の測定法 (SHG 自己相関法、2光子蛍光法、ストリークカメラ)
- 4回 パルス伝播効果
- 5回 パルス圧縮
- 6回 波長域の拡大
- 7回 発光分光法
- 8回 吸収分光法
- 9回 過渡格子
- 10回 反射分光法
- 11回 ラマン散乱分光法
- 12回 コヒーレント過渡現象
- 13回 フォトンエコー
- 14回 コヒーレントラマン分光法
- 15回 高速電気パルスの発生と測定、高速現象の観測

1. Laser fundamental
2. Examples of mode-locked lasers
3. Measurement of ultrashort light pulses (SHG autocorrelation, two-photon fluorescence, streak camera)
4. Effect of propagation on pulse shape
5. Pulse compression
6. Expansion of wavelength region of light wave
7. Photoluminescence spectroscopy
8. Absorption spectroscopy
9. Transient grating
10. Reflection spectroscopy
11. Raman scattering spectroscopy

12. Coherent transient phenomena
13. Photon echo
14. Coherent Raman spectroscopy
15. Generation and measurement of ultrashort electric pulses and observation of fast electronic processes

【教科書】

無し、プリントを配布する。

No textbook is specified and printed synopsis is distributed.

【参考書】

1. "Ultrashort Light Pulses", S.L. Shapiro編、Topics in Applied Physics, Vol. 18, (Springer-Verlag)
2. "超高速光技術", 矢島達夫編、丸善
3. "非線形光学計測", 小林孝嘉編、学会出版センター
4. "Optical Electronics in Modern Communications", A. Yariv著、Oxford Univ. Press.

【成績の評価方法と評価項目】

中間および期末のレポートにより評価する。

Scored on reports

【参照ホームページアドレス】

<http://femto.nagaokaut.ac.jp/>
打木研究室ホームページ

【担当教員】

上林 利生 (KAMBAYASHI Toshio)

【教員室または連絡先】

室: 電気1号棟6階605室、内線9531

Office: Room 605, 6th floor, 1st building of Electrical Engineering Department, Extension 9531

E-mail: toshikam@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的

光波工学と量子電子工学を応用した最新のデバイスについて、その動作原理、動作特性などを理解し、最新の情報を得るとともにプレゼンテーションと質疑応答の仕方を学ぶ。

The principles and characteristics of latest devices in the fields of optical wave engineering and quantum electronics will be presented. Students acquire the manner of presentation and discussion.

達成目標

授業キーワードを少なくとも一つ持つ最新の論文を取り上げ、そこで取り上げられているデバイスの動作原理、動作特などを理解し、適切な言葉で説明・解説でき、同時に必要な文献の収集もできること。さらに質疑に対し適切に応答できること。

To read a latest paper including one key word at least.

To explain the principle and property of devices used in the paper using proper terms.

To collect the reference papers and reply all questions in a proper way.

【授業キーワード】

integrated optics, semiconductor laser, LED, optical fiber, optical amplifier, optical modulator, optical detector, optical circuit, optical resonator, fiber grating, fiber sensor

【授業内容及び授業方法】

授業内容

最新の光デバイスの動作原理、動作特性などの解説と、プレゼンテーション能力の向上

Explain and interpret the principles, characteristics and so on of latest optical devices.
Brush up individual presentation.

授業方法

各自、自分の研究題目と関連のありそうな、授業キーワードを少なくとも一つ含む最新の論文を取り上げて、その内容を、自分の研究題目との関連を含めてプレゼンテーションする。そのプレゼンテーションに対して全員参加で質疑応答する。必要があれば教官が解説するとともに宿題を出す。

Each student presents his interpretation of a latest paper selected by him.

The paper must include one key word at least and the field near to his research project.

All students must attend the discussion about his presentation.

The lecturer will explain the back ground of the paper and assign home work if necessary.

【授業項目】

1. 前回の担当による宿題の解説
2. 各担当によるプレゼンテーション
3. 全員参加の質疑応答
4. 教官による解説と宿題の提示

1. Explanation of the home work by the last presenter.

2. Presentation by the student.

3. Discussion by all students.

4. Supplementary explanation and Assign of home work by the lecturer.

【成績の評価方法と評価項目】

論文調査40%、プレゼンテーション30%、質疑応答30%で成績を評価する。

Grade will be based on the following: 40% Preparation for the paper, 30% Presentation and 30% Discussion.

【留意事項】

受講者は光波工学と量子電子工学の基礎知識を有しているものが望ましい。

It is desirable that the students have fundamental knowledge of optical wave engineering and quantum electronics.

【担当教員】

内富 直隆 (UCHITOMI Naotaka)

【教員室または連絡先】

電気1号棟305室 9505 E-mail:uchitomi@nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的

高速・高周波電子デバイスあるいは半導体レーザは、情報通信分野のキーデバイスであり、近年の高周波無線通信、光通信技術の急速な進歩とあわせて更なる高性能化が求められている。本講義では、これらのデバイスを構成する化合物半導体について概説し、そのデバイスに関して、デバイス構造、その製造プロセス、デバイスの課題について述べる。特に、本講義では、目覚ましく発展する最近の通信分野への応用を意識しながら、材料技術、デバイス技術の動向について説明する。本講義により、受講者がこの分野の技術開発の経緯と今後の技術動向を理解することにより、電子工学技術者としての素養を養う。

達成目標

- ・高周波デバイスなどの応用分野についての知見を深め、将来技術動向を予測する基礎知識を与える。
- ・具体的なデバイス開発について歴史的経緯とデバイスの動作原理について理解する。
- ・デバイス製造技術からどのような材料技術および材料工学が必要か、あるいは問題点を把握する。
- ・新しいデバイス技術動向を把握し、将来何が問題となるかを理解する洞察力を養う。

High-speed / high-frequency electronic devices and semiconductor photonic devices are the key devices in information / communication fields. This lecture outlines the progress in compound semiconductor device technologies and their application fields. The focus of this course is especially the device technology regarding to GaAs and related compounds. In this lecture, the up-to-date technologies of high-speed devices and materials are also presented.

【授業キーワード】

化合物半導体デバイス、携帯電話、高周波増幅器、光通信、プロセス技術、FET, HEMT, HBT compound semiconductor materials and devices, wireless communication, high-power amplifire, optical communication, process technology, FET, HBT, HEMT

【授業内容及び授業方法】

OHPを用いて講義する。

【授業項目】

1. 化合物半導体デバイスのシステム応用 (2回)
光通信や無線通信分野におけるデバイスの位置づけ
2. 半導体材料の基礎物性 (2回)
化合物半導体の一般的な物性について概説する
3. III-V族化合物半導体材料 (2回)
GaAs, InPなどIII-V族化合物半導体の性質について説明する。
4. 化合物半導体電子デバイス
4-1 電界効果トランジスタ (3回)
電界効果トランジスタの構造、動作原理、製造プロセス、材料
- 4-2 ヘテロ接合デバイス (3回)
高電子移動度トランジスタ、ヘテロ接合バイポーラトランジスタについて動作原理や製造方法を説明する。また、技術開発の流れを振り返りながら、材料やデバイス構造の課題について述べる。
5. 最近の技術動向 (2回)
最近新しく研究・開発されている材料やそのデバイスについて説明する。また、デバイス応用面からの課題について述べ、今後の技術動向について理解してもらう。
6. レポート発表
課題について調べ、レポートプレゼンテーションを行う。

- 1.Application of compound semiconductor devices to optical and wireless communication systems.
- 2.Outline of compound semiconductors.
- 3.Optical and transport properties of GaAs and related compounds.
- 4.Device physics and modeling of GaAs MESFET , HEMT, and HBT.
- 5.Recent progress in high-speed devices including GaN devices.

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

たとえば、「化合物半導体デバイス入門」生駒英明、生駒俊明著 培風館

【成績の評価方法と評価項目】

与えられた課題についてレポートを提出し、このレポートについてショートプレゼンテーションを行う。評価方法はレポート内容が70%、プレゼンテーションが30%とする。

Students will be graded on written report and oral presentation, as well as class participation.

【留意事項】

受講者は、「デバイス工学I,II,III」を履修していることが望ましい。

【担当教員】

石黒 孝 (ISHIGURO Takashi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟303教官室(内線9503, e-mail : ishiguro@vos)

【授業目的及び達成目標】

薄膜はバルクと何が本質的に異なるのか！？という点について物性論(電子論)的に理解することを目的とする。そして最近の超微粒子、ナノチューブ、超薄膜、超格子、量子井戸、人工格子などのメソスコピック材料についての考え方を学ぶ。更に、薄膜構造解析の理論と手法を学ぶ。

What is the essential difference between the thin films and the bulk materials!? The aim of this topic is to understand this question from the view point of solid state physics. We will learn the process of the mesoscopic structured materials, such as the ultra fine particles, nano-tube, ultra fine thin films, quantum well, and man-made super lattice. The method and theory of the structure analysis of thin films are also studied.

次元、メソスコピックサイズ、そして電子—格子系に強く依存した結晶電子状態の記述と理解。空間群と結晶構造の表現を含む結晶学の実践的知識の習得。

Description and understanding of the electron states of crystals strongly dependent on the dimension, the mesoscopic size and the electron and lattice system.

Students will acquire the practical knowledge of crystallography including space groups and representative crystal structures.

【授業キーワード】

薄膜、メソスコピック材料、膜構造解析、加えて授業項目に記載の項目

Thin films, Mesoscopic structured material, Structure analysis of thin films, and the keywords mentioned in the item of contents of the lecture.

【授業内容及び授業方法】

はじめに対象物質の形状(次元と大きさ)による物性の差異と量子効果が問題になるサイズについて考える。第二に、結晶や超格子の空間的周期変調によって電子構造にバンドが形成されることを学ぶ。第三に、電子系の不安定性に由来する超周期構造について述べる。以上によって物質の周期構造の意味をとらえる。後半は量子力学における摂動論に始まる散乱理論の記述と膜構造解析について述べる。

Appearance of quantum effect in the different form, different dimension and different size of material will be discussed. A rigorous introduction based on elementary quantum-mechanics leads to an understanding of the electron band structure in the crystal which is defined to be the matter with the periodic arrangement of ions. The origin of the super lattice structure with a long period will be explained by the instability due to the free electron gas system. Students will understand the essential meaning of the period in the material. At the latter half of the lecture, the description of the scattering theory based on the quantum mechanical perturbation theory and the structure analysis of thin films will be presented.

必要に応じてプリントを配布し、板書、OHP等により講義を行なう。

毎回、講義終了後に各自が講義で理解したこと、疑問に思ったことを記述してもらい、それを回収し、疑問点に関しては次回の講義にて可能な限りフィードバックを行なう。

The lectures will be presented by OHP slides, writing on the blackboard and hands-out if needed. At the end of every lecture, comments and questions described are collected. The responses will be given at the beginning of the next lecture.

【授業項目】

1. 次元と状態密度(1次元、2次元、3次元の自由電子)
2. メソスコピックな立体量子構造(量子井戸、量子細線、量子箱)
3. 周期的変調(Blochの定理、Kronig-Pennyモデル、格子と逆格子、自由電子に近い電子モデル、原子に強く束縛された電子モデル)
4. 電子系の周期(電子応答関数の次元依存性、Pierls転移と超周期構造)
5. 結晶の対称性と表現(対称性、点群、空間群)
6. 散乱理論(摂動論、原子散乱因子)
7. 膜構造解析(X線回折、透過型電子顕微鏡)

1. Dimension and density of states (Free electron in the space of 1-dimension, 2-dimension, and 3-dimension)
2. Mesoscopic quantum three-dimensional structures (Quantum well, Quantum wire, Quantum box)
3. Modulation in the spatial period (Bloch's theorem, Kronig-Penny's model, Lattice and reciprocal lattice, Nealy free electron approximation, Tight binding approximation)
4. Period caused by electron system (Electron response function Dimensional dependence of electron response function, Pierls's phase transformation and super lattice structure)
5. Symmetry of the crystal and representation (Symmetry, Point group, Space group)
6. Scattering theory (Perturbation theory, Atomic scattering factor)
7. Structure analysis of thin films (X-ray diffraction, Transmission electron microscopy)

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。
Hand-out will be distributed to students.

【成績の評価方法と評価項目】

宿題(40%)、学習ノート(20%)、課題レポート(40%)
Homework (40%), Learning notebook (20%), Report for offered exercises (40%).

【留意事項】

講義中のコメント・質問は歓迎する。
Positive comments and questions are welcomed.

【担当教員】

小野 浩司 (ONO Hiroshi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟607教官室(内線9528, e-mail: onoh@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

光学材料、光学デバイス、光学現象、等、光に関連する分野についての技術情報の収集能力、プレゼンテーション能力を充実させる。

(Improvement of the ability in the presentation for the optical material, optical device, optical phenomena and etc.)

【授業キーワード】

光学、デバイス、光物性、
(optics, device, optical material physics)

【授業内容及び授業方法】

各自下記のテーマから一つの題材を選び、その技術内容を調査し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに参加者全員での質疑応答を行うとともに、教官が解説する。

(Student selects one of the preferable subject shown in the followings and perform the presentation in public.)

- (1) ホログラムの分類と特性 (Classification and characteristics of the hologram)
- (2) フォトリフレクティブ効果によるホログラム形成 (Hologram generation by photorefractive effect)
- (3) 光学的異方性媒体と偏光の伝播 (Polarized optical wave in the anisotropic materials)
- (4) 電気光学効果 (ポッケルス効果、電気カー効果) (Electro-optic effect, Pockels and Kerr effects)
- (5) 高分子液晶と光学 (Optics in the polymer liquid crystals)
- (6) 電場配向高分子と光強度変調素子 (Poled polymer and light intensity modulation device)
- (7) 液晶と配向処理技術 (Alignment treatment for liquid crystal)
- (8) 光ディスクの種類と記録・再生原理 (Classification of the optical memory desks and a principle of the recording and reading)
- (9) 液晶高分子複合体 (PDLC) と表示技術 (Information display by use of the polymer dispersed liquid crystals)
- (10) ジョーンズ解析と異方性媒体 (Characterization of the anisotropic materials by means of the Jones analysis)
- (11) 種々偏光素子とその動作原理 (Principle of the polarizing optical devices)
- (12) 種々干渉計の原理とその光計測への応用 (Optical measurements by means of the optical interferometers)
- (13) 回折格子を用いた分光技術と分解能 Spectroscopic analysis by use of the gratings)
- (14) 光導電性の計測技術 (Measurements for the photocurrents)
- (15) 縮退四波混合と位相共役光の発生 (Optical phase conjugation by degenerate four wave mixing)
- (16) 表面波デバイスと光偏向器への応用 (Optical deflection by means of surface wave device)
- (17) 薄膜による反射防止膜の原理 (Prevention of the surface reflection by optical thin films)
- (18) 電気光学係数の測定技術 (Experimental methods for determination of the electrooptic coefficients)
- (19) 画像相関とホログラフィー (Image collilation by holography)
- (20) スペckルホログラフィによるストレス解析 (Stress analysis by holographic and speckle interferometry)
- (21) 平面ディスプレイ技術 (Flat panel display)
- (22) エリプソメトリーの原理と応用 (Principle of the elipsometry)
- (23) Bragg回折とRaman-Nath回折 (Bragg and Raman-Nath diffraction)
- (24) 金属表面における反射と屈折 (Reflection and refraction at the metal surface)
- (25) 金属表面でのプラズモン反射 (Plasmon reflection at the metal surface)
- (26) 短パルスレーザーの種々の発振原理 (Principle of the short pulse laser)
- (27) DLTS法による半導体の深い不純物準位の同定 (Characterization of the deep level in the semiconductor by DLTS)
- (28) 有機EL素子 (Organic electroluminescence device)
- (29) 半導体の光物性と半導体レーザー (Optical material physics in the semiconductor and semiconductor laser)
- (30) 位相共役干渉計とその応用 (Optical interferometer by use of the phase conjugated light)
- (31) 有機分子配向の光制御 (Orientation of the organic molecules by polarized light)
- (32) 強誘電体結晶の光学応用 (Optics in the ferroelectric crystals)
- (33) 種々の感光材料とホログラム記録 (Photosensitive materials used in holography)
- (34) ラマン分光の基礎とその応用 (Principle of the Raman spectroscopy)

【授業項目】

- (1) 各担当によるプレゼンテーション (30分程度) (presentation, about 30 min)
- (2) 参加者による質疑応答 (questions and answers)
- (3) 教官による解説 (lecture by the teacher)

【教科書】

なし

【参考書】

なし

【成績の評価方法と評価項目】

- (1) 調査内容(40点程度) (contents of the investigation)
- (2) プレゼンテーション(20点程度) (presentation)
- (3) 質疑応答(40点程度) (questions and answers)

【担当教員】

木村 宗弘(KIMURA Munehiro)

【教員室または連絡先】

Room 607, 1st building of Electrical Engineering Department, phone# 9540,
E-mail: kimura@alclan.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

The lectures will cover the principles and applications of analytical instrumentation for electronic materials. The objectives are to give you (1) an in-depth understanding of the most frequently used analytical methods (e. g. scanning probe microscopy, ellipsometry, spectroscopy), (2) an overview to help you choose an appropriate analytical technique for a specific problem.

【授業キーワード】

instrumental analysis, scanning probe microscopy, ellipsometry, spectroscopy, resonance, second harmonic generation

【授業内容及び授業方法】

First, an overview of the instrumental analysis for electronic materials will be lectured. Then, each student will prepare a literature research paper (ca. 10 pages) based on a current topic in instrumental analysis in an area of their choosing. Finally, presentation using PC projector, 10-15 minutes in length, will be given by the student. In either case, a rough draft is to be submitted. The language in class is English.

【授業項目】

Classification of analytical methods and the types of instrumental methods
Electrical measurement (CV, time-flight method, etc.)
Scanning probe microscopy (STM, AFM, etc.)
Calorimetry
Ellipsometry
X-ray diffraction
Second Harmonic Generation
Spectroscopy (FT-IR, ESCA, etc.)
Resonance (ESR, NMR, etc.)

【教科書】

Text will be handed in the lecture.

【参考書】

Instrumental methods of chemical analysis / Galen W. Ewing. -- 5th ed. -- McGraw-Hill, 1985.

【成績の評価方法と評価項目】

Attendance in lecture and class participation is required. Because class discussions are a major part of the class, attendance is required and record will be taken.
40% Literature research
40% Oral presentation (incl. rough draft)
20% Attendance in lecture, participation in discussion

【参照ホームページアドレス】

<http://www.alclan.nagaokaut.ac.jp/~kimura/lecture/iaem/index.html>
Instrumental Analysis for Electronic Materials

【担当教員】

花木 真一 (HANAKI Shin-ichi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

直感的な理解と理論的アプローチによる論理関数への理解を基礎に、順序回路を体系的に理論面から理解させ、順序回路の分解、合成手法を習得させる。さらに形式言語／オートマトン理論の中で順序回路や計算システムの基本的なモデルであるチューリング機械の位置づけを理解し、計算システムについての総合的な理解を深めさせる。

Based on both intuitive and theoretical approaches to logic functions, theory of sequential circuits is discussed including their decomposition and synthesis techniques. Furthermore, sequential circuits and Turing-machine, a basic model for computing system, are discussed in the context of formal language and automata theory. Thus, the lecture helps for students to gain a better comprehension of computing systems.

【授業キーワード】

論理関数, 組合せ論理回路, 順序回路, 形式言語, オートマトン, チューリング機械

logical function, combinatorial circuit, sequential circuit, formal language, automaton, Turing-machine

【授業内容及び授業方法】

直感的な理解を通して論理関数への理解を深め、特に万能論理関数を例に理論的アプローチの訓練をした後、モデル化した順序回路について、その表現、状態の等価性と両立性の理論を通して順序回路の実現手法を学ぶ。次に部分順序回路から目的の順序回路を合成する手法を学ぶ。さらに順序回路と形式言語の関係について学び、各種の形式言語とオートマトンの関係と、それらの中での順序回路やチューリング機械の位置づけを理解する。

The lecture starts with an intuitive approach to logic functions in order to give students a better comprehension, and then introduces a theoretical approach to them, employing the theory about universal logic functions as an example. Then, expressions of modeled sequential circuits are given, which are used to realize a simplified sequential circuit based on state-equivalence or compatible set. The theory on formal language is introduced, which explains relations between formal languages and corresponding automata. Sequential circuits and Turing-machine are discussed in automaton-classes.

【授業項目】

1. 論理関数の直感的な理解と論理関数の諸性質
2. 論理関数の分解・合成と組合せ回路の簡単化
3. 万能論理関数集合の理論
4. 順序回路の実現と状態の等価性・両立性に基づく簡単化
5. 順序回路の分解と部分順序回路からの合成
6. 順序回路と形式言語の関係
7. 句構造文法とチューリング機械

- 1.Intuitive description of logic functions and their characteristics,
- 2.Decompositon and synthesis of logic functions and simplification of combinatorial circuits,
- 3.Theory of universal logic function,
- 4.Realization of logic circuits and their simplification based on state-equivalence or compatible set.
- 5.Decompositon of sequential circuits and synthesis from partial units,
- 6.Relation between sequential circuits and formal language, and
- 7.Phrase structure grammar and Turing-machine.

【教科書】

当麻喜弘著「スイッチング回路理論」コロナ社
他に必要に応じて授業中に資料を配布する。

【参考書】

富田悦次ほか著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績の評価方法と評価項目】

中間試験, 期末試験, 演習を総合して評価する。

Evaluation of learning results will be made in consideration of the achievements in midterm and semester final exam together with exercises.

【担当教員】

松田 甚一 (MATSUDA Jin-ichi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟604室

【授業目的及び達成目標】

画像認識に関する理論体系を概説し、その数理的基礎を学習する。

【授業内容及び授業方法】

画像認識に関する数学的手法を習得し、さらに、視覚情報処理のメカニズム、ニューラルネットの数理などを学習する。

【授業項目】

1. 画像認識の数学的基礎
2. 統計的画像処理の基礎
3. 視覚情報処理のメカニズム
4. ニューラルネットの数理

【留意事項】

パターン認識工学の履修および画像工学特論の受講が望ましい。

【担当教員】

神林 紀嘉 (KAMBAYASHI Noriyoshi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟505室 内線9521
E-mail : nkamb@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的

高周波回路や電源回路等におけるアナログ信号処理の比重は大きく、特にアナログフィルタは重要な構成要素の一つである。そこで回路工学特論ではフィルタの設計理論を学ぶと同時に回路シミュレータを用いて特性の確認を行い、より実用的な回路設計手法を学ぶことを目的とする。

達成目標

1. 1端子対回路及び2端子対回路の性質と構成法を理解する。
2. 回路と動作特性の関係を理解する。
3. 特性近似の必要性を理解する。
4. 近似理論を学ぶ (バターワース, チェビシェフ, エリプティック近似)
5. 製品化において重要な素子の損失, 素子感度について学ぶ
6. 能動フィルタ設計理論を理解する。
7. Pspiceによる回路シミュレーションを会得する
8. 急速に適用範囲を広げているデジタルフィルタの基礎を学ぶ。

General aim: Electric filters are very important element in the field of high-frequency application and power supply. The aim is to understand the theory and design of electric filters. ;to understand the characteristics of one-port and two-port networks.;to review two-port network parameters including scattering parameters.;to examine the principles of applications of filter synthesis based on realisability, approximation theory, and passive network synthesis.;to include single and double terminated filters and an introduction to active and digital filters.

【授業キーワード】

1端子対回路, 2端子対回路, LCフィルタ, アナログ信号処理, バターワース特性, チェビシェフ特性, 楕円特性, 素子感度, 能動フィルタ, Pspice, デジタルフィルタ
one-port network, two-port network, LC filter, analog signal processing, Butterworth, Tchebychev, elliptic, sensitivity, active filter, Pspice, Digital filter

【授業内容及び授業方法】

プリントに沿って講義する。
また、適宜フィルタ設計演習と宿題(レポート)を課す。

【授業項目】

1. 一端子対回路(正実関数, 一端子対回路の実現)
2. 二端子対回路(リアクタンス2端子対回路の実現)
3. 二端子対回路の動作特性(電力, 散乱行列)
4. 近似理論(バターワース, チェビシェフ, 楕円, 遅延平坦フィルタの伝達関数)
5. 基準低域通過フィルタの構成と周波数変換(LPF, HPF, BPF, BRF and APF)
6. フィルタ実現における留意事項(素子の損失, 素子感度)
7. 能動フィルタ
8. Pspiceシミュレーション
9. デジタルフィルタ

Topic areas:

1. One-port network(positive real function, circuit realization)
2. Two-port network(circuit realization, scattering parameters)
3. Approximation theory (Butterworth, Tchebychev, elliptic, delay flat)
4. Realization of canonical low-pass filters and frequency transform
5. Effect on element loss and sensitivity
6. Active filter
7. Pspice simulation
8. Digital filter

【教科書】

プリント

【参考書】

柳沢, 神林”フィルタの理論と設計”秋葉出版

【成績の評価方法と評価項目】

試験(80点)とレポート(20点)の総合評価

Assessment: exam(80%);laboratory exercises(20%)

【留意事項】

学部開講の電気回路, 電子回路, 及び数学を理解していること.

Prerequisites: Electric circuit, Electronic circuit and Mathematics

【担当教員】

島田 正治 (SHIMADA Shoji)

【教員室または連絡先】

居室:電気1号棟5階502室、内線9518

Room:502, first Building of Electrical Engineering Department, Extension 9518

Email:shimada@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的: 音声符号化、音響機器、画像処理等のデジタル信号処理分野に欠かせない適応信号処理について、適応システムの構成と種類、適応線形結合、定常信号での適応理論、適応アルゴリズムとその構成法について修得する。本科目は教育目的(9)に寄与する。

To present the field of Adaptive Signal Processing, which is the key to digital signal processing technologies such as Speech Coder Technology, Acoustical Equipment Technology, and Image Processing Technology, the students will learn the configurations and kinds of adaptive systems, the adaptive linear combiner, the theory of adaptation with stationary signals, the adaptive algorithms/structure, and so on. This lecture will deepen the student's understanding of adaptive signal processing, and contribute to the achievement of the 9th education goal.

達成目標(Achievement targets):

1. 適応システムの形態について理解する。
A clear understanding of the configurations possible for adaptive systems.
2. 線形結合器の仕組みと最小二乗誤差を理解する。
A clear understanding of the operation of the adaptive linear combiner and the minimum mean-square errors.
3. 放物特性曲面の特性と探索法、勾配推定法を理解し、各アルゴリズムの特徴を説明できる。
A clear understanding of the properties of the quadratic performance surface, how to search the performance surface, and how to perform gradient estimation. The features of several algorithms used in adaptive processing methods will be explained.
4. LMSアルゴリズムの導出と学習曲線が計算できる
Comprehension of the derivation and calculation of the learning curve of the LMS Algorithm.
5. Z変換と適応信号処理との関連を学習する。
A clear understanding of the role of the z-transform in adaptive signal processing.

【授業キーワード】

(Keywords): Adaptive system, Prediction, Identification, Equalization, Interference canceling, Adaptive linear combiner, Transversal filter, Mean-Square Error, Eigenvectors and Eigenvalue, Performance Surface, Gradient Search Algorithm, Newton's Method, Steepest Descent Method, Learning Curves, Gradient Estimation, LMS Algorithm, Z-transform

【授業内容及び授業方法】

基礎的な知識から応用技術まで記述されている英文の著名な原書を用いて、適応信号処理に理解を深める。具体的には、予め学生諸君に割当ら得た章を読み、他の学生が判るような発表を行い、教科書に記載してある式について導出を行い、理解を深める。本講では、与えられた演習問題を解答することにより、学生自身を中心となって討議し、実社会に役に立つ適応信号処理を学習する。

The students will study the fundamentals of adaptive signal processing by reading and understanding famous English reference sources that will span the field from basic knowledge to application technologies. Concretely speaking, the students will be required to read the English source and then make an intelligible presentation on the source's contents to the other students from the platform. Next, the student will derive the equations in the textbook which will deepen the student's comprehension. In this lecture, the students will solve exercises and debate the correctness of the solutions with each; emphasis will be placed on learning adaptive signal processing so as to put it into practical use.

【授業項目】

(Lecture apportionment):

1. 適応システム概要と適用例(2回)
General introduction and application of Adaptive systems (2 classes)
2. 適応線形結合器(2回)
The Adaptive Linear Combiner (2 classes)
3. 2次特性曲面(2回)
The properties of the Quadratic performance surface (2 classes)
4. 性能曲面の探索(3回)
Searching the Performance Surface (3 classes)
5. 勾配推定とその効果(2回)
Gradient and its Effects on Adaptation (3 classes)

6. LMSアルゴリズム(2回)
The LMS Algorithm (2 classes)
7. 適応信号処理でのZ変換(2回)
The z-transform in Adaptive Signal Processing (2 classes)
8. 学期末試験(1回)
The final examination (1 class)

【教科書】

(The textbook):

”Adaptive Signal Processing” B.Widrow, S.D.Stearns, Prentice-Hall, ISBN 0-13-004029

【参考書】

(Reference books):

”Adaptive Filters” C.F.N. Cowan, P.M.Grant, Prentice-Hall, ISBN 0-13-004037-1,

”Adaptive Filter Theory”, S.Haykin. Prentice-Hall, ISBN 0-13-005513-1,

「信号解析とシステム同定」、中溝高好、コロナ社、ISBN 4-339-03081-3、

「線形等化理論」適応デジタル信号処理、佐藤洋一、丸善、ISBN 4-621-03468-5、

「最小二乗法の理論とその応用」、田島稔・小牧和雄、東洋書店、ISBN 4-88595-048-1、「適応信号処理」、

辻井重男、昭晃堂、ISBN 4-7856-2011-0

【成績の評価方法と評価項目】

予め割り当てられた章について発表を行った回数と演習問題のレポート提出回数を平常点(20%)とみなし、学期末試験結果(80%)と併せて、成績評価とする。

The overall assessment is determined by assigning 20% of the points to the in-class evaluations while the remaining 80% is assigned to the final examination.

The points of in-class evaluation are proportional to the numbers of submitting the reports and making the presentation.

【留意事項】

本講義は少なくとも学部3年2学期の”デジタル信号処理基礎”の修得を前提とする。

The students must have passed, as a minimum, the examination of fundamental digital signal processing in the second term of third year of the university course.

【担当教員】

荻原 春生 (OGIWARA Haruo)

【教員室または連絡先】

電気1号棟503室
Electrical Engineering Building Room 503

【授業目的及び達成目標】

授業目的

信号の時間的变化が確率的に規定される不規則信号の特性の表現法である相関関数とパワースペクトル密度の概念とその相互関係を理解し、線形系通過によるそれらの変形の解析法を理解し、それらの実験的推定を修得する。さらに、それらの情報に基づき、雑音混じった不規則信号の現在あるいは未来の値の推定法を修得する。

Objective of the lecture

(1) Understand the relation of the correlation function and the power spectral density those are one of characteristics of random signals. (2) Understand the change of the correlation function and the power spectral density through a linear system. (3) Understand estimation methods of the correlation function and the power spectral density. (3) Understand the estimation method of random signal corrupted with noise and a prediction method of the future value of a random signal.

達成目標

1. 相関関数の概念を理解する。
2. 線形系の入力信号と出力信号の相互相関関数と系のインパルス応答の関係を理解する。
3. パワースペクトル密度と相関関数の関係、パワースペクトル密度の推定法を理解する。
4. 統計的推定の考え方を理解する。
5. 自己回帰モデル (ARモデル) とそのパラメータ推定法を理解する。
6. カルマンフィルタとRLSアルゴリズムの導出を理解する。

Expected achievement

1. Understand the concept of correlation functions.
2. Understand the relation between the impulse response of a linear system and the crosscorrelation function between a input signal and the output signal.
3. Understand the relation between power spectral density and the correlation function and understand power spectral estimation methods.
4. Understand the concept of stochastic estimation method.
5. Understand the auto-regressive model (AR model) and an estimation method of the model parameters.
6. Understand Kalman filter algorithm and recursive least square (RLS) algorithm.

【授業キーワード】

不規則過程, 相関関数, パワースペクトル密度, レビンソンアルゴリズム, カルマンフィルタ, RLSアルゴリズム
Keywords: random signal, correlation function, power spectral density, Levinson algorithm, Kalman filter, RLS algorithm

【授業内容及び授業方法】

瞬時の値の統計的特性を論ずる初等確率論の概要について復習し、それを時間関数に拡張した確率過程の特性表現法について学習する。それを用いて、雑音で汚れた信号の推定、不規則な振舞いをする信号の将来の値の予測手法を学ぶ。
随時理論計算あるいはプログラム作成をともなうレポートを課す。

Contents of the lecture

(1) Review of elementary probability theory. (2) Extension of the probability theory to stochastic time series theory. (3) Study of estimation method of random signal corrupted with noise. (4) Study of prediction method of future random signal value.

【授業項目】

第1部 概論 (教科書: 荻原, 岸 “信号理論入門”, 朝倉書店)

1. 1 不規則信号とは、相関関数、線形系通過による相関関数の変化(第1週から3週)
1. 2 パワースペクトル密度、線形系通過によるパワースペクトル密度の変化、パワースペクトル密度の推定(第4週、5週)
1. 3 不規則信号理論の応用の紹介: インパルス応答の推定、雑音に埋もれた信号の検出、隣接チャネルへの妨害電力の計算、不規則信号の予測(1) (第6週)

第2部 各論 (教科書: 添田, 中溝, 大松 “信号処理の基礎と応用”, 日新出版)

2. 1 確率論の復習: 確率分布関数, 確率密度関数, 条件付き確率, (第7週、8週)
2. 2 中心極限定理、逆行列の補題、統計的独立、マルコフ過程、ガウス過程(第9週、10週)
2. 3 パワースペクトル密度の推定(2)、(第11週)
2. 4 自己回帰過程 (ARモデル) 等の離散確率課程のモデル, ARパラメータの推定(レビンソンアルゴリズム)

) (第12週、13週)

2. 5 不規則過程の予測(2): カルマンフィルタ, RLSアルゴリズム (第14週、15週)

Lecture schedule

Part 1: Overview of random signal theory:

1.1 What is random signal? Change of a correlation function through linear system. (1 to 3 weeks)

1.2 Power spectral density. Change of power spectral density through linear system. Estimation for power spectral density (1). (4 to 5 weeks)

1.3 Introduction of some application of random signal theory: estimation of an impulse response, detection of signals corrupted with noise, estimation of interference to a neighboring channel. (6 week)

Part 2: Detailed discussion

2.1 review of probability theory: probability distribution, probability density, conditional probability. (7 to 8 weeks)

2.2 Central limit theory, Lemma of matrices inversion, stochastic independence, Markov process, Gaussian process. (9 to 10 weeks)

2.3 Estimation of power spectral density (2). (11 week)

2.4 Model of time discrete random process such as auto-regressive model (AR model), estimation of AR parameters (Levinson algorithm). (12 to 13 weeks)

2.5 Prediction of future value of random process (2): Kalman filter algorithm, RLS algorithm. (14 to 15 weeks)

【教科書】

「信号理論入門」荻原、岸 朝倉書店

「信号処理の基礎と応用」添田、中溝、大松 日新出版

【参考書】

中溝高好「信号解析とシステム同定」コロナ社

“Random Signals” K. S. Shanmugan and A. M. Breipohl, John Wiley & Sons.

【成績の評価方法と評価項目】

レポートの評価による。未提出のレポートは、絶対値が満点に等しい負の評価点とする。

Achievement is checked based on reports. Achievement point of unsubmitted report is negative of full point.

【留意事項】

本講義は学部の「線形信号理論」「デジタル信号処理基礎」に接続する。

【参照ホームページアドレス】

<http://comm.nagaokaut.ac.jp>

荻原研究室

【担当教員】

吉川 敏則 (YOSHIKAWA Toshinori)

【教員室または連絡先】

電気1号棟5階510室(内線:9526、e-mail:tyoshi@nagaokaut.ac.jp)
Electrical Engineering Building 510 (ext. 9526)

【授業目的及び達成目標】

情報処理と信号処理に関連するいくつかの理論と応用について理解する。
The lecture about some theories is presented in the fields of Information and Signal Processing.

【授業キーワード】

離散フーリエ変換、数論、デジタル信号処理
Discrete Fourier Transform, Number Theory, Digital Signal Processing

【授業内容及び授業方法】

主として「デジタル信号処理における数論」について学び、その基本的な論理と適用範囲を理解する。
The lecture is focused on "The Number Theory in Digital Signal Processing", and is presented about the basic theories and the scope to be applied of them.

【授業項目】

1. 離散フーリエ変換と巡回たたみ込み
 2. 多次元信号と変換
 3. 数論の基礎と離散フーリエ変換
 4. 信号処理へのEulerの定理の応用
 5. デジタル信号処理における群、環、体
-
1. Discrete Fourier Transform and Circular Convolution
 2. Multidimensional Signals and Transforms
 3. Basic Number Theory and Discrete Fourier Transform
 4. Application of Euler's Theorem for Signal Processing
 5. Groups, Rings and Fields in Digital Signal Processing

【教科書】

特になし。
None specified.

【参考書】

James H. McClellan and Charles M. Rader, Number Theory in Digital Signal Processing, Prentice-Hall, Inc.

【成績の評価方法と評価項目】

主として、レポートの内容を評価対象とする。
The grade will be mainly based on the reports for exercises.

【留意事項】

フーリエ変換の基本的な内容を理解していることが望ましい。
It is desirable to have the basic knowledge of Fourier transform.

【担当教員】

中川 匡弘 (NAKAGAWA Masahiro)

【教員室または連絡先】

電気1号棟609室

【授業目的及び達成目標】

シナジェティクス, カオス, フラクタル及びそれらに関連する数理工学の情報工学への応用に関する基礎を講述する.

[達成目標]

1. シナジェティックニューラルネットワークの基礎を習得する.
2. カオスの基礎とカオスニューロンモデルについて理解する.
3. カオスニューラルネットを用いた分散型メモリとその基本的特性について習得する.
4. カオスダイナミクスのリアプノフ解析手法について理解する.
5. フラクショナル微積分とfBm確率過程について習得する.
6. $1/f$ 揺らぎとフラクタル性の関係について理解する.
7. フラクタル次元の定量化手法を習得する.
8. リアプノフ次元によるカオスとフラクタルの関係について理解する.
9. フラクタル素子とその構造と電気的特性について習得する.
10. 独立成分分析とその応用について習得する.

【授業キーワード】

カオス
フラクタル
ニューラルネット
シナジェティクス
フラクタル符号化
カオスニューロン
フラクタンズ素子

【授業内容及び授業方法】

まず, Haken により提唱されたシナジェティクスの理論に基づく Top Down 型のニューロコンピューティングの基礎を修得し, さらに, ニューロコンピューティングにおけるカオスダイナミクスの必要性と Lyapunov 解析によるその定量化に関する手法を学ぶ. また, Fractional Calculus に関する基礎を学習し, Newton の時代から用いられてきた整数階の微積分学が, いかに一般化されるのかを理解するとともに, フラクタル理論へのプロローグとする. さらに, Fractional Differential Equation を取りあげ, 一般化 Brownian 関数とそのフラクタル性について学習し, Self-Similar と Self-Affine の定義を行い, その差異について学ぶ. そこでは, 具体的な応用として, 音声波形のフラクタル性の定量化手法, ならびに, Hausdorff 空間における縮小写像の基礎と Collage定理を修得し, Barnsleyにより提案された Iterated Function System 理論と画像圧縮への応用について修得する. 最後に, Kaplan-Yorke の定理から, Lyapunov次元を導き, カオスとフラクタルの相互関係について理解する.

【授業項目】

1. シナジェティックニューラルネットワーク
2. カオスの基礎とカオスニューロンモデル
3. カオスニューラルネットを用いた分散型メモリ
4. カオスダイナミクスのリアプノフ解析
5. フラクショナル微積分とfBm
6. $1/f$ 揺らぎとフラクタル性
7. フラクタル次元の定量化手法
8. リアプノフ次元によるカオスとフラクタルの関係
9. フラクタル素子とその構造と電気的特性
10. 独立成分分析とその応用

【教科書】

特になし

【参考書】

Chaos and Fractals in Engineering Masahiro Nakagawa (World Scientific Inc. 1999)
カオスニューロコンピューティング 中川匡弘 (森北出版, 2003, 出版予定)

【成績の評価方法と評価項目】

[評価項目]

出席
レポート(5回)
講義ノート

[評価方法]

上記の評価項目の評価結果を上記の達成目標の達成度と照合し、総合的に評価する。

【留意事項】

上記参考図書は、本学図書館の蔵書であるので、履修を検討する際に参考にされることが望ましい。

【担当教員】

太刀川 信一 (TACHIKAWA Shin'ichi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟, 501室, 内線9517

Room 501, 1st building of Electrical Engineering Department, Extension 9517.

【授業目的及び達成目標】

本講義では、基礎的なデジタル通信方式、2進符号系列、符号追跡と捕捉、そして他の多くの通信技術からなる「スペクトル拡散技術」を講述する。スペクトル拡散技術、符号分割多元接続の原理と応用について理解させることを目的とする。

In the lecture, spread spectrum techniques which include "basic digital communication theory", "binary sequence techniques", "code tracking and acquisition" and other communication techniques will be presented. Students can understand principles and applications of these spread spectrum techniques and code division multiple access communication systems.

【授業キーワード】

スペクトル拡散技術, 符号分割多元接続CDMA, 符号系列, 符号追跡, 符号捕捉

spread spectrum techniques, code division multiple access, code sequence, code tracking, code acquisition

【授業内容及び授業方法】

講義は、教科書並びに配付資料により進める。

The lectures will be presented with the textbook and prints.

【授業項目】

1. スペクトル拡散通信概要(1回)
2. 拡散変復調(4回)
3. 拡散符号(3回)
4. 同期(3回)
5. 干渉除去(2回)
6. スペクトル拡散通信の応用(1回)
7. 期末試験(1回)

1. Spread Spectrum Communication Concepts (1)
2. Modulation and Demodulation of Spread Spectrum (4)
3. Code Sequence of Spread Spectrum (3)
4. Synchronization (3)
5. Interference Cancellation (2)
6. Applications of Spread Spectrum Communications (1)
7. Examination (1)

【教科書】

「スペクトル拡散通信とその応用」丸林元, 中川正雄, 河野隆二著, コロナ社

"Spread spectrum communication and its applications", G. Marubayashi, M. Nakagawa and R. Kohno, Corona.

【参考書】

”スペクトル拡散通信入門” R. L. Peterson, R. E. Ziemer and D. E. Borth, 訳: 丸林元, 黒木聖司, 太刀川信一, 佐々木重信, 科学技術出版

"Introduction to spread spectrum communications", R. L. Peterson, R. E. Ziemer and D. E. Borth, PRINCE HALL.

【成績の評価方法と評価項目】

成績は、期末試験とレポートで評価する。

Students will be evaluated the test and reports for offered exercises.

【参照ホームページアドレス】

<http://tach1.nagaokaut.ac.jp/>

太刀川研究室

【担当教員】

和田 安弘 (WADA Yasuhiro)

【教員室または連絡先】

居室(和田):電気1号棟6階608室, 内線9534
Electrical Engineering Building Room 608
E-mail:ywada@nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

人間の脳に学んだ人工神経回路網のダイナミクスによる新しい情報処理技術、つまり、その計算メカニズム、学習メカニズムは、脳機能のメカニズムの解明のために重要である。本講義では、ヒトの運動制御を中心に、計算論的アプローチに従って、脳の運動に関する計画・制御・学習について講述する。

Objective of the lecture

An artificial neural network (ANN) is an information-processing paradigm inspired by the parallel structure of the human brain information processing. The key elements of the ANN paradigm are the novel information processing system, the learning system and they are important to research the brain function. The course aims at introducing human motor planning, motor control and motor learning.

- ・ 計算論的アプローチを学習する。
- ・ 脳の機能局在を理解する。
- ・ ニューロンの数理モデルを理解する。
- ・ 軌道計画の計算理論を理解する。
- ・ 運動学習の概念を理解し、学習アルゴリズムを習得する。
- ・ 内部モデルについて理解する。

Achievement targets:

- ・ Understanding of the computational approach
- ・ Understanding of the brain functional localization
- ・ Understanding of the mathematical model of neurons
- ・ Understanding of the computational theory for trajectory planning
- ・ Understanding of the motor learning theory and the learning algorithm
- ・ Understanding of the internal model

【授業キーワード】

脳、計算論的アプローチ、ニューロンモデル、運動制御、内部モデル、軌道計画、軌道生成、双方向、認知

Keyword

brain, computational approach, neuron model, motor control, internal model, trajectory planning, trajectory formation, bi-direction, perception

【授業内容及び授業方法】

脳研究のアプローチである計算論的方法を学習し、ニューロンおよびヒトの生体運動制御を学ぶ。次に、主にヒト腕を対象として、運動制御・軌道計画・学習を学び、それを実現する神経回路モデルについて学習する。講義は、配布資料等に沿って行なう。

Contents of the lecture

The computational approach for neuroscience, neuron models and human motor system will be presented. Next, the students will learn human motor control, motor planning and motor learning, then they will learn the neural network model for the motor system.

【授業項目】

- 1 計算論的アプローチ
- 2 ニューロンの数理モデル
 - (1) 形式ニューロンモデル
 - (2) Hodgkin-Huxleyモデル
- 3 脳の生体運動制御系
- 4 運動制御の計算理論
 - (1) 不良設定問題
 - (2) 仮想軌道制御仮説
- 5 軌道計画の計算理論
- 6 軌道生成の神経回路網モデル
- 7 双方方向性理論
- 8 運動学習(教師あり学習と教師なし学習)
- 9 内部モデル仮説
- 10 運動と認知・コミュニケーション

Lecture schedule

- 1 The Computational theory
- 2 The Model of neurons
 - (1) Mathematical model of neurons
 - (2) Hodgkin-Huxley model
- 3 The Motor system in the brain
- 4 The computational theory for the motor control
 - (1) The ill-posed problems
 - (2) The virtual trajectory control hypothesis
- 5 The computational theory for the trajectory planning
- 6 Neural network models for trajectory formation
- 7 The bi-directional theory
- 8 The motor learning (Supervised learning and Non-Supervised learning)
- 9 The internal model hypothesis
- 10 Trajectory formation and perception, communication

【教科書】

教科書は指定しない。
None specified.

【参考書】

「脳の計算理論」産業図書 川人光男著
「脳科学大事典」朝倉書店 甘利俊一・外山啓介編集
“The handbook of brain theory and neural networks”, M. A. Arbib Ed. The MIT press

【成績の評価方法と評価項目】

出席とレポートによって評価する。
The grade will be mainly based on the reports and class participation.

【担当教員】

中川 健治 (NAKAGAWA Kenji)

【教員室または連絡先】

居室:電気1号棟5階507室, 内線9523,
Room:507, Ext.9523
E-mail nakagawa@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的

情報ネットワークの特性評価の基礎理論である待ち行列について講義する。まず、待ち行列への到着過程とサービス過程について述べ、基本的なポアソン到着と指数サービスについて詳しくその性質を調べる。次に、待ち行列解析に必要なマルコフ過程の一般的性質について述べ、その解析法を示す。具体的には、システムにおける状態の推移に関する微小時間の振る舞いから微分方程式を立て、それに基づいて定常解を得る方法を導くことを示す。M/M/1待ち行列の系内客数の定常確率、平均系内客数、平均系内時間等の特性を評価する。さらに様々な待ち行列の解析を行う。

達成目標

1. ポアソン分布に関する確率を計算できること。
2. 待ち行列の解析の目的である系内客数の定常確率、平均系内客数、平均系内時間の定義を理解する。
3. 待ち行列の解析のために、システムを微分方程式で表すことができること。
4. 解析に必要な簡単な微分方程式を解けること。
5. 例にならって簡単なマルコフ過程の解析ができること。
6. 教科書に現れる様々な待ち行列の特性を評価し、それらの比較ができること。
7. 離散時間マルコフ連鎖の基本的性質を理解すること。
8. 例にならって、簡単なマルコフ連鎖の解析ができること。

Purpose of Study

Lecture is given about the queueing theory, which is a basic theory for the performance analysis of information networks. First, arrival process and service process are described then fundamental process, Poisson process and exponential service process are investigated in detail. Next, general properties of Markov process are presented, which are necessary for the analysis of a queue. About the M/M/1 queue, the performance measure such as the stationary probabilities of customers in system, the average number of customers, and average sojourn time are evaluated. Moreover, analysis of various kind of queues are demonstrated.

【授業キーワード】

ポアソン到着, 指数サービス, マルコフ過程, M/M/1待ち行列, 平均システム内客数, 平均待ち時間, アーランのB,C公式, マルコフ連鎖, M/D/1待ち行列

Key Words

Poisson arrival, Exponential service, Markov process, M/M/1 queue, average number of customers, average sojourn time, Erlang B,C formula, Markov chain, M/D/1 queue

【授業内容及び授業方法】

指定した教科書に沿って講義を行う。また、期末試験を行う。

Method of lecture

Lecture is given along the contents of the designated textbook. A term-end examination will be done.

【授業項目】

1. 到着とサービス
2. ポアソン到着と指数サービス
3. マルコフ過程の解析
4. 待ち行列解析の目的
5. M/M/1待ち行列(1)
6. M/M/1待ち行列(2)
7. M/M/1/K待ち行列
8. M/M/S待ち行列
9. アーランB,C式
10. マルコフ過程で表せるその他の待ち行列
11. マルコフ連鎖について
12. M/D/1待ち行列の解析
13. 待ち行列解析に関する発展的課題
14. 待ち行列解析に関する発展的課題
15. 期末試験

Terms of lecture

1. Arrival and service
2. Poisson arrival and exponential service
3. Markov process
4. Purpose of queueing analysis
5. M/M/1 queue (1)
6. M/M/1 queue (2)
7. M/M/1/K queue
8. M/M/S queue
9. Erlang B,C formula
10. Other queues
11. Markov chain
12. M/D/1 queue
- 13, 14. Recent topics on queueing analysis
15. Term-end examination

【教科書】

「情報通信理論1」萩原春生, 中川健治共著, 森北出版

Textbook

"Theory of Information Transmission 1" H.Ogiwara,K.Nakagawa, Morikita

【参考書】

「待ち行列システム理論」クラインロック著, マグロウヒル好学社

Reference book

"Queueing Systems" L.Kleinrock, John Wiley & Sons

【成績の評価方法と評価項目】

学期末に実施する期末試験の成績によって単位を認定する。

Evaluation

Credit is given according to the result of the term-end examination

【留意事項】

基礎的な微分方程式, 線形代数の知識を必要とする。

Fundamental knowledge of differential equation and linear algebra is required.

【担当教員】

湯川 高志 (YUKAWA Takashi)

【教員室または連絡先】

居室: 電気1号棟6階606室, 内線9532,
E-mail: yukawa@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的

情報処理システムを構成するソフトウェアを、人間の経験や直感といった属人性に頼らずに、均質、高品位に開発・管理することを目指す「ソフトウェア工学」について、その考え方と手法に関する知識を修得する。ソフトウェア工学における代表的な手法である構造化設計およびオブジェクト指向設計の考え方を理解し、それらに用いられる種々の図法を身につける。

達成目標

- 構造化設計手法を理解し、課題に対する構造化設計ができること。具体的には以下ができること。
 - ・課題が与えられた時に、構造化設計手法により要求分析を行いデータフローダイアグラム、データディクショナリを記述できること。
 - ・要求分析の結果に基づいてシステム設計を行い、階層構造図を記述できること。
 - ・システム設計に基づいてプログラム設計を行い、HCPチャートが記述できること。
- オブジェクト指向設計手法を理解し、課題に対してオブジェクト指向設計を行い統一モデリング言語UMLによる表記ができること。具体的には以下ができること。
 - ・与えられた課題に対し、オブジェクト指向分析を行って要求モデルを構築し、ユースケース図として記述できること。
 - ・要求モデルに基づいて分析モデルおよび設計モデルの構築を行い、クラス図、システムシーケンス図、システム内シーケンス図として記述できること。

Course Description

This course is intended to develop an understanding of the problems associated with the development of significant computing systems (that is, systems that are too large to be designed and developed by a single person, and are designed to be used by many users). It is also intended to learn the techniques including "structured design technique" and "object-oriented design technique", and tools for the techniques necessary to develop such systems efficiently.

Objectives

On completion of this course, the student will have following:

1. the knowledge and skill to apply a structured approach to the development of a solution to a problem.
 - 1-1. the ability to analyze the problem and to describe it into the data flow diagram and data dictionary.
 - 1-2. the ability to design the system following the structured design manner and to describe it as the hierarchical structured chart.
 - 1-3. the ability to design the program following the structured programming manner and to describe it as HCP chart.
2. the knowledge and skill to apply an object-oriented approach to the development of a solution to a problem.
 - 2-1. the ability to model the problem and to describe it as the use case diagram.
 - 2-2. the ability to design the system and program following the object-oriented design manner and to describe them into the class diagrams and sequence diagrams.

【授業キーワード】

ソフトウェア工学, 構造化設計, HCPチャート, オブジェクト指向設計, 統一モデリング言語(UML)
Software Engineering, Structure Design, HCP chart, Object-Oriented Design, Unified Modeling Language(UML)

【授業内容及び授業方法】

データ・プロジェクトを用い資料をスクリーンに提示して講義を進める。それぞれの設計手法について、実例を挙げて具体的な設計と図による表記を示すことにより、手法の実践的な修得を促進する。
A data projector is used for the lecture.

【授業項目】

1. ソフトウェアの概念
2. ソフトウェア工学
3. 要求定義技法
4. システム設計技法(1)
5. システム設計技法(2)
6. プログラム設計技法(1)
7. プログラム設計技法(2)
8. 構造化設計手法まとめ

9. オブジェクト指向設計手法
10. 要求モデルの構築
11. 分析モデルの構築
12. 設計モデルの構築(1)
13. 設計モデルの構築(2)
14. オブジェクト指向設計手法まとめ
15. エクストリーム・プログラミング

1. What is software
2. Introduction to Software Engineering
3. Requirement Analysis
4. Structured System Design (1)
5. Structured System Design (2)
6. Structured Programming (1)
7. Structured Programming (2)
8. Summary of Structured Design Technique
9. Object-Oriented Design Concepts
10. Object-Oriented Analysis
11. Object-Oriented Model
12. Object-Oriented Programming (1)
13. Object-Oriented Programming (2)
14. Summary of Object-Oriented Design Technique
15. Extreme Programming

【教科書】

具体的な教科書は講義で指示する。

To be announced in the class

【成績の評価方法と評価項目】

中間、期末にレポートを課し、それぞれのレポートを50点満点として両者を総合して評価する。中間レポートは構造化設計手法に関する課題、期末レポートはオブジェクト指向設計手法に関する課題を与え、達成目標に示した各項目に基づいて採点する。

The final grade will be based on a midterm project and a final project. The midterm project concerns structured design technique and the final project concerns object-oriented design.

【留意事項】

講義資料はWWWにて公開するため、予習・復習のためにWWWにアクセスできる環境を整えておくことが望ましい。

The course handouts will be taken via WWW. The students are recommended to have an access to WWW.

【担当教員】

張 熙 (ZHANG Xi)

【教員室または連絡先】

電気1号棟506室

【授業目的及び達成目標】

デジタル信号と画像処理に関連する理論と応用を学習する。

【授業内容及び授業方法】

信号のデジタル化, 離散フーリエ変換, z 変換等の基礎概念を学習し, デジタル信号とシステムを取り扱う手法, デジタルフィルタの設計法を修得する。さらに, マルチレート信号処理, フィルタバンク, ウェーブレット変換, 及び画像符号化などへの応用について学習する。

【授業項目】

1. 信号のデジタル化(標本化、量子化)
2. フーリエ変換
3. z 変換
4. デジタルフィルタ
5. マルチレート信号処理
5. フィルタバンク
6. ウェーブレット変換
7. 画像圧縮

【教科書】

特になし

【成績の評価方法と評価項目】

期末レポートにより評価する。

【留意事項】

デジタル信号処理基礎と画像工学を履修し, フーリエ変換, z 変換等の基本的な内容を理解していることが望ましい。

【担当教員】

岩橋 政宏 (IWAHASHI Masahiro)

【教員室または連絡先】

電気1号棟504室 (内線9520)
Room 504, Building 1, Electrical Engineering, Ext.9520

【授業目的及び達成目標】

情報通信技術の基幹であるデジタル信号処理に関する基礎的な解析法および応用技術について、画像情報処理を中心に系統的に学習する。

The students systematically study analytical methods and applications on digital signal processing focusing on digital image processing and coding.

【授業キーワード】

圧縮、ウェーブレット、直交変換、JPEG、MPEG
compression, wavelet, orthogonal transform, JPEG, MPEG

【授業内容及び授業方法】

直交変換、フーリエ変換、z変換を復習しつつ、デジタル信号処理、デジタル・フィルタ、マルチレート信号処理、ウェーブレット変換、直交変換、最小自乗法などについて、JPEGやMPEGなどで利用される画像圧縮の応用例を通して学習する。

The lecture focuses on "digital signal processing", "digital filter", "multi-rate signal processing", "wavelet transform", "orthogonal transform", "mean square method" reviewing "Fourier transform" and "z-transform" via "image compression" techniques.

【授業項目】

- 1-2. Overview of the compression techniques
- 3-4. Predictive coding and z transform
- 5-7. Orthogonal transform coding.
8. Examination (1)
- 9-10. Spectrum analysis
- 11-13. Multi-rate signal processing
14. International standards
15. Examination (2)

【教科書】

授業中に資料を配布する。
"Text" will be provided in the class.

【参考書】

貴家仁志「マルチメディア技術の基礎 DCT入門」CQ出版, 先端技術の手ほどきシリーズ「画像情報圧縮」テレビジョン学会、有本卓「信号・画像のデジタル処理」産業図書、その他

【成績の評価方法と評価項目】

中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の総計により評価する。
 $\text{total score} = \{ \text{examination}(1) + \text{examination}(2) \} / 2$

【留意事項】

フーリエ変換、z変換、デジタル信号処理を既に習得していることを前提として授業を進める。
The students are supposed to have studied "Fourier transform", "z-transform" and "digital signal processing".

【参照ホームページアドレス】

<http://tech.nagaokaut.ac.jp/lecturenote/lecture.html>

【担当教員】

山本 和英 (YAMAMOTO Kazuhide)

【教員室または連絡先】

電気1号棟405号室 (内線9513, e-mail: ykaz@nagaokaut.ac.jp)
Elec. Dept. No.1 Bldg., Room 405 (ext.9513, e-mail:ykaz@nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

実社会において最も大量かつ重要な情報である言語情報に対して、どのように計算機で処理を行なうかについて学ぶ。人間が用いる言語(自然言語)は画像や音声とは異なり、あらゆる面において比較的緩い規則性しか持たないため、これを計算機で解析するのは容易ではない。言語の持つこのような特性を理解した上で、これを処理するためのいくつかの基礎的なアルゴリズムを中心に理解を深める。

Computer processing of natural language, or language that is used by human communication is learned. Natural language is the largest in amount in our daily life, the most informative information source, and the least recognizable patterns than other media such as speech and vision. In this lecture, the participants will notice several features of natural language, and learn some basic and typical algorithms for handling them by computer.

【授業キーワード】

形態素解析、構文解析、意味解析、機械翻訳、テキスト要約、情報検索、多言語処理
part-of-speech tagging, parsing, semantic analysis, machine translation(MT), text summarization, information retrieval(IR), multilingual processing

【授業内容及び授業方法】

講義前半は概ね教科書に沿って講義を行なう。講義後半や必要な場合には配布資料に基づいて講義を進める。

The lecture follows the printing material that is provided at each class.

【授業項目】

1. 自然言語処理の概観
2. 形態素解析:かな漢字変換、統計的言語モデルなど
3. 構文解析:CYK法、チャート法など
4. 意味解析:格文法、意味ネットワークなど
5. 文脈解析:対話解析、照応解析など
6. 言語資源:コーパス、世界知識など
7. 言語生成:スクリプトなど
8. 機械翻訳と音声翻訳:用例翻訳、統計翻訳など
9. テキスト要約:重要文抽出など
10. その他(時間のある場合):情報検索、多言語処理など

1. outline of natural language processing
2. sentence segmentation and part-of-speech tagging
3. some parsing techniques
4. semantic analysis and word sense disambiguation
5. contextual analysis
6. language resources
7. text generation
8. machine translation and spoken language translation
9. text summarization
10. other topics such as information retrieval and multilingual processing

【教科書】

吉村賢治「自然言語処理の基礎」サイエンス社

None is specified for English lecture; the participants can have the handouts at each class.

【参考書】

参照ホームページを参照のこと。

See the Web page below for list of reference books.

【成績の評価方法及び評価項目】

期末試験の得点によって成績を評価する。

The overall assessment will be assigned according to the result of the final examination at the last class.ast class.

【参照ホームページアドレス】

<http://nlp.nagaokaut.ac.jp/>

自然言語処理研究室 (Natural Language Processing Laboratory)

【担当教員】

Mark Surma,伊藤義郎(Ito Yoshiro), 井原郁夫(Ihara Ikuo),明田川正人(Aketagawa Masato),阿部雅二朗(Abe Masajiro)

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (Surma)
Abe Masajiro (Room 504, Mechanical Engineering Build., ext. 9721)

【授業目的及び達成目標】

This skills-based unit uses a number of practical activities to allow students to achieve oral presentation skills. Students will be given techniques and strategies to manage communication comprehension, think critically, research, prepare and deliver effective persuasive messages, understand cultural and gender differences, become effective listeners and work effectively individually as well as in a group.

【授業内容及び授業方法】

Class time will focus on developing speech ideas in groups, discussing effective methods for preparation and delivery of public speeches, and giving brief speeches. Students will also learn how select, prepare and present an academic paper at a conference, and take active participation in discussion and debate. Therefore, students will be required to select an academic paper in their own area of research as the basis for their oral presentation.

【授業項目】

The following topics will be covered in the unit:

- 1) Communication.
- 2) Communication Apprehension
- 3) Non- verbal Communication
- 4) Speech Making
- 5) Message Delivery
- 6) Team Presentation
- 7) Listening Strategies
- 8) Discussion and Debate

【成績の評価方法と評価項目】

Grades will be based on the following:

- 30% Participation
- 20% Speech Manuscript and Content
- 40% Oral Presentation
- 10% Portfolio(Student reflections)

【留意事項】

Class size will be limited to 16 students only. Therefore, before enrolling in the unit each student will be required to pass a short interview.

【担当教員】

Valerie. McGown・湯川 高志 (YUKAWA Takashi)

【教員室または連絡先】

Valerie. McGown (Room 404, Chemistry Engineering Build., ext. 9363)
YUKAWA Takashi (Room 606, Electrical Engineering Build., ext. 9532)

【授業目的及び達成目標】

The focus will be on preparation and presentation of academic papers for international conferences and active participation in discussion and debate. This class will teach the framework and necessary skills for delivering effective speeches. In principle, this subject is available only to students who demonstrate a reasonable fluency in reading and speaking English.

【授業内容及び授業方法】

Class time will include giving brief speeches, developing speech ideas in groups, discussing effective preparation and delivery of public speeches, and learning how to participate in discussion and debate. Students will be required to select an academic paper in their own area of research as the basis for their oral presentations.

【授業項目】

We will discuss such factors as 1) constructing the basic Introduction/Body/Conclusion of a speech 2) gaining and maintaining audience attention and rapport 4) developing audio-visual aids, and 5) researching sources of information.

【成績の評価方法と評価項目】

Grades will be based on the following: 25% Attendance and Participation, 35% Speech Manuscripts and Content, 40% Speech Presentations

【留意事項】

Class size will be limited to 14 maximum based on an interview and a reading exercise conducted during the first two classes with the teachers.

Students taking the Oral Presentation class are expected to attend all class periods (1st and 2nd period on Friday). Written Presentation cannot be taken at the same time.

【担当教員】

Mark Surma、Kazunori Sato

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (Surma), 環境システム棟569室 (佐藤)

【授業目的及び達成目標】

No matter what your natural abilities or talents are. No matter how good you may be in certain areas. If your writing skills are poor to average, it might be embarrassing to you and your associates who are frequently exposed to your mistakes. Therefore, it is essential to have good written communication skills, as your image and credibility may rest up on it. For this reason in this course you will learn steps and processes involved in writing an academic paper, and gain a better understanding of formal writing in general.

【授業内容及び授業方法】

The unit will include various exercises, individual assignments and group work. By the end of the unit each student will need to submit a report of about 1500 words on a selected topic.

【授業項目】

The following topics will be covered in the unit:

- 1) Introduction to Academic Writing
- 2) Writing Apprehension
- 3) Report Writing
- 4) Writing Essays
- 5) The Structure of a Research Paper
- 6) Referencing

【成績の評価方法と評価項目】

成績の評価方法と評価項目

Grades will be based on the following:

- 10% Participation
- 30% Portfolio (Student reflection)
- 60% Assignment

【留意事項】

Class size will be limited to approximately 16 students only. Therefore, before enrolling in the unit each student will be required to pass a short written task.

【担当教員】

野坂 篤子 (NOSAKA Atsuko)

【教員室または連絡先】

非常勤講師
化学経営情報棟527号室 aynosaka@chem.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

様々な分野の科学雑誌のコラムやエッセイを教材に用い、論理的で的確な英文読解能力を養成し、演習を繰り返すことにより簡潔な英文要約を作成する能力を養う。

【授業キーワード】

科学英語、読解力、要約記述、論理的英文構成

【授業内容及び授業方法】

初回の授業で具体的な教材・授業の進行方法等を解説する。読解と英作を基本とし、簡単な英文要約の演習を行う。この授業では、比較的短文を読み、英語で書かれた図表や短い説明文などから情報を的確に読みとる練習をし、工学分野で一般的に使われる単語や表現に慣れることをめざす。テキストに沿って、要約する時に用いる語彙や文型、文と文とのつなぎ方などの練習を行う。
20人前後の受講者数が望ましいので、受講生が多い場合には、初回に選抜試験を行う。

【授業項目】

1. 一般科学雑誌や英字新聞の科学記事の読解
2. 記事の目的、結果、結論、予測等の客観的把握
3. 1、2、に基づく要約の作成演習
4. 各人が作成した要約の添削

【教科書】

配布プリントを使用する。特定の分野の高度な知識を必要とするものは扱わない。

【参考書】

1. はじめての科学英語論文: Robert A. Day / [著] 美宅成樹 / 訳: 丸善、
2. 科学英語論文のすべて: 日本物理学会 / 編: 丸善、
3. 科学英語論文の基礎作法: マイケル J. カッツ / 著 桜井邦朋 / 訳: 朝倉書店、
4. 科学英語論文の書き方および科学会議の講演: バーノン・ボース / 著 松森徳衛 / 訳: 現代工学社

【成績の評価方法と評価項目】

平常点、提出物、および試験による総合評価

【留意事項】

特になし